

平成17年度（第49回）
岩手県教育研究発表会発表資料

小規模・複式

**複式学級における
学び合う力を育む学習指導に関する研究**
- かかわり合う学習活動を進める手引を活用した
指導方法の工夫をとおして -

平成18年1月12日
長期研修生
所属校 花巻市立笹間第二小学校
盛合修二

目 次

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 研究の内容と方法	1
2 授業実践の対象	2
研究結果の分析と考察	2
1 複式学級における学び合う力を育む学習指導に関する基本構想	2
(1) 複式学級における学び合う力を育む学習指導に関する基本的な考え方	2
(2) かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法	3
(3) 複式学級における学び合う力を育む学習指導に関する基本構想図	4
2 かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた手立ての試案の作成...	4
3 かかわり合う学習活動を進める手引を活用した小学校算数科における指導方法の工夫.....	6
(1) 小学校算数科におけるかかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法	6
(2) 手立てにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察	6
(3) 小学校算数科におけるかかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を 取り入れた手立ての試案	8
(4) 検証計画	8
4 授業実践及び実践結果の分析と考察	10
(1) かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた授業実践の概要.....	10
(2) 実践結果の分析と考察	14
5 複式学級における学び合う力を育む学習指導に関する研究のまとめ	17
(1) 成果	17
(2) 課題	18
研究のまとめと今後の課題	18
1 研究のまとめ	18
2 今後の課題	19
おわりに	
【引用文献】	
【引用Webページ】	
【参考文献】	
【補充資料】	

研究目的

複式学級における学年別の指導過程には、直接指導と間接指導を意図的に位置付けている。特に、間接指導においては、児童が相互にかかわり合いながら学び合う力を身に付けさせ、主体的に学習に取り組ませることが大切である。

しかし、間接指導時の児童の実態をみると、自分の考えはもてるものの、その考えを生かしてかかわり合いながら主体的に学習を進めているとは言えない状況にある。これは、かかわり合う学習活動を進める手順の指導が十分ではなかったことと、かかわり合う学習活動の形態が画一的であったことが要因であると考えられる。

このような状況を改善するためには、かかわり合う学習活動を進める手引を作成し、内容や手順を児童自身に理解させ、間接指導時におけるかかわり合う学習活動の形態を工夫することをおして学び合う力を育むことが必要である。

そこで、本研究は、かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法の工夫をおして、学び合う力を育む学習指導について明らかにし、複式学級の学習指導の改善に役立てようとするものである。

研究仮説

複式学級における学年別学習指導において、かかわり合う学習活動の内容と手順を示した手引を作成し、単元をおして段階的に活用させ、児童の実態に応じてかかわり合う学習活動の形態を工夫すれば学び合う力を育むことができるであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

(1) 複式学級における学び合う力を育む学習指導に関する基本構想（文献法）

複式学級における学び合う力を育む学習指導についての基本的な考え方をまとめ、学び合う力を育む学習指導についての基本構想を立案する。

(2) かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた手だての試案の作成

基本構想に基づき、かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法の手だての試案を作成する。

(3) かかわり合う学習活動を進める手引を活用した小学校算数科における指導方法の工夫（質問紙法）

基本構想、手だての試案に基づき、かかわり合う学習活動を進める手引を活用した小学校算数科における指導方法の工夫について立案する。

手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察を行い、小学校算数科におけるかかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた手だての試案を作成する。

(4) 授業実践及び実践結果の分析と考察（授業実践、質問紙法）

小学校算数科におけるかかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた手だての試案に基づき、単元「あまりのあるわり算」「大きい数のしくみ」(3学年)、「わり算の筆算(2)」(4学年)の授業実践を行う。

検証計画に基づき、学び合う力の育成状況を分析し、考察する。

(5) 複式学級における学び合う力を育む学習指導に関する研究のまとめ

実践結果の分析と考察に基づき、複式学級における学び合う力を育む学習指導についてまとめる。

2 授業実践の対象

花巻市立笹間第二小学校 第3学年(男子3名 女子1名)・第4学年(男子1名 女子3名)計8名

研究結果の分析と考察

1 複式学級における学び合う力を育む学習指導に関する基本構想

(1) 複式学級における学び合う力を育む学習指導に関する基本的な考え方

ア 学び合う力とは

学び合いについて、佐伯胖氏は「学び合うことを大切にすることは学びが本質的に『対話』であるということをも前提とする。与えられる知識を取り込むのではなく、心的対話を高めることが思考であり、学びなのだ。」と述べている。また、羽黒町立第一小学校研究発表資料では、学び合う力が育まれた児童を「人(仲間)との対話、相互交流を通して自他の良さに気づき、自分のやり方や考え方に生かすことができる子ども」としている。

そこで、本研究では学び合う力を、「人とのかわり合いをとおして、考えを伝え合い、互いの考えを確かめたり、見直したりし、考えの良さに気付いて自分の考えに取り入れ、考えを深めたり、広げたりする力」と定義して進めていく。

【表1】に示したとおり、学び合う力は、考えを伝え合うための「伝え合う力」、考えを確かめたり、見直したりするための「見直す力」、考えの良さを自分の考えに取り入れるための「取り入れる力」の三つの力で構成され、次のように育まれると考えた。児童は、個々の学ぼうとする意欲を土台とし、自

【表1】学び合う力の構成要素

構成要素	内 容
伝え合う力	自分の考えを相手に分かりやすく伝え、相手の考えを理解すること
見直す力	考えを比べながら、自分の考えを確かめたり、見直したりすること
取り入れる力	考えの良さに気づき、自分の考えに取り入れ、考えを深めたり、広げたりすること

分の考えや相手の考えを「伝え合う力」を使い、分かりやすく伝え合おうとする。次に、「見直す力」によって、それぞれの考えを比べながら自分の考えを確かめたり、見直したりしていく。そしてまた、考えを確かめるために伝え合う。これらの過程においては、互いに

かわり合い、自分の考えを深めたり、広げたりしながら相手に伝えることになる。ここではたらく力が「取り入れる力」である。このように、三つの力は、個々ばらばらにはたらくのではなく、互いにかかわり合いながら高まっていくものである。したがって、これら三つの力を関連付けながら育む必要がある。

イ 複式学級において学び合う力を育む意義

複式学級における学年別の指導過程には、直接指導と間接指導が位置付けられている。直接指導とは、教師が一方の学年の児童に直接学習内容を指導することであり、間接指導とは、教師が一方の学年を直接指導している間、もう一方の学年に教師が立てた計画に沿って個別に学習させたり、集団で学習させたりするように間接的に指導することである。

複式学級における学年別の授業では、45分の中で両学年の学習のねらいを達成させるために、間接指導時の学習活動をどのように進めさせ、充実を図るかが大きな課題となる。そこで、間接指導の時間を、児童が自ら進んで学習を進めさせる態度を育成するのに適した時間としてとらえることが大切である。しかし、これまでのように学習を進めさせるだけの指導

では形式的な学習活動となり、間接指導時の学習活動を充実させることは難しい。

そこで、間接指導時に、互いの考えを伝え合わせることでかかわり合わせ、課題解決に向けた話し合いを進める学習活動をさせることが、間接指導の充実を図る上で必要である。そして、そのような学習活動を進めさせるためには、学び合う力を育むことが必要であり、複式学級の学習指導を改善させるために意義のあることである。

(2) かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法

ア かかわり合う学習活動とは

本研究におけるかかわり合う学習活動とは、学び合う力を育むために行う学習活動であり、児童が、課題を解決するために自分の考えを伝え、他の児童の考えを理解し、学び合いを行う学習活動である。

イ かかわり合う学習活動を進める手引とは

児童が、間接指導時にかかわり合う学習活動を進めることができるように、かかわり合う学習活動の内容や手順を明確に示し、指導することが大切である。しかし、教師が間接指導時にかかわり合う学習活動の指導を行うことは難しい。そこで、かかわり合う学習活動を進める手引を作成し、間接指導時に児童に活用させ、かかわり合う学習活動の内容や手順の理解を図ることにした。手引に載せる内容は【表2】に示すとおりである。

手引は、教科や単元（題材）、領域によって内容や手順を変えて作成する。また、児童一人一人に持たせ、かかわり合う学習活動時に確認しながら活用できるよう、児童が扱いに慣れている大きさ、ノートや教科書と一緒に持ち歩くことのできる大きさであるB5両面1枚で作成する。また、手引はラミネート加工し、付箋紙を貼り直すことや、必要なことを書き入れたり、消したりできるようにした。

【表2】手引の内容

項目	内容
自分の考えを伝えさせる	・考えのまとめ方や表現方法、発表方法について
相手の考えを理解させる	・考えを聞くときの留意点や質問について
話し合いを進めさせる	・話し合いの視点について ・かかわり合う学習を進める手順について ・考えの良さを見付ける観点について ・より良い考えを見付ける観点について

ウ かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法の工夫

(ア) 単元をとおして手引を段階的に活用させる指導

児童にかかわり合う学習活動を進める手引の内容や手順の理解を図り、間接指導時にかかわり合う学習活動を進めさせるため、単元をとおして手引を段階的に活用させることとした。

単元の導入では、直接指導時に教師が手引を活用する指導を児童に行いながら、かかわり合う学習活動を行わせる。

次に、単元の展開では、直接指導時に児童に手引を活用させる指導を行い、間接指導時に児童に手引を活用させながらかかわり合う学習活動を行わせる。

最後に、単元の終末では、直接指導時に児童へ必要に応じて手引を活用させる指導を行い、間接指導時に必要に応じて手引を活用させながらかかわり合う学習活動を行わせる。

以上のように、児童に手引を段階的に活用させることは、児童が手引に示した内容や手順を身に付け、手引を活用しなくても、かかわり合う学習活動を進めることができるようになることを目指している。

(1) 児童の実態に応じて行うかかわり合う学習活動の形態の工夫

かかわり合う学習活動では、児童個々の学習の理解度や他の児童とのかかわり合い方の程度に応じて、人数やメンバーなどの形態を変えさせることにした。これは、決められた人数や相手と画一的な形態でかかわり合う学習活動を行うのではなく、多様な形態でかかわり合う学習活動を行わせることで、様々なかかわり合う学習活動の経験をさせることができると考えたからである。そこで、かかわり合う学習活動に二つの形態を【表3】のように位置付けて研究を進める。

また、単元の導入 **【表3】かかわり合う学習活動の学習形態と内容**

段階では、教師が直接指導時にかかわり合う学習活動の形態について理解させる。展開・終末段階では、直接指導時にかかわり合う学習活動の形

かかわり合う学習活動の形態	内 容
二人以上で進めるかかわり合う学習活動	自分の考えを確かめたり、解決できないときに協力して考えたりする活動
学年全体で進めるかかわり合う学習活動	学年全体で考えを発表し合い、より良い考えを検討する活動

態について指導し、児童が間接指導時にかかわり合う学習活動を進めることができるようにする。このように、単元をとおして指導しながらかかわり合う学習活動の形態について理解を図る。

(3) 複式学級における学び合う力を育む学習指導に関する基本構想図

これまでの基本構想を基に、複式学級における学び合う力を育む指導に関する基本構想図を、5頁の【図1】のように作成した。

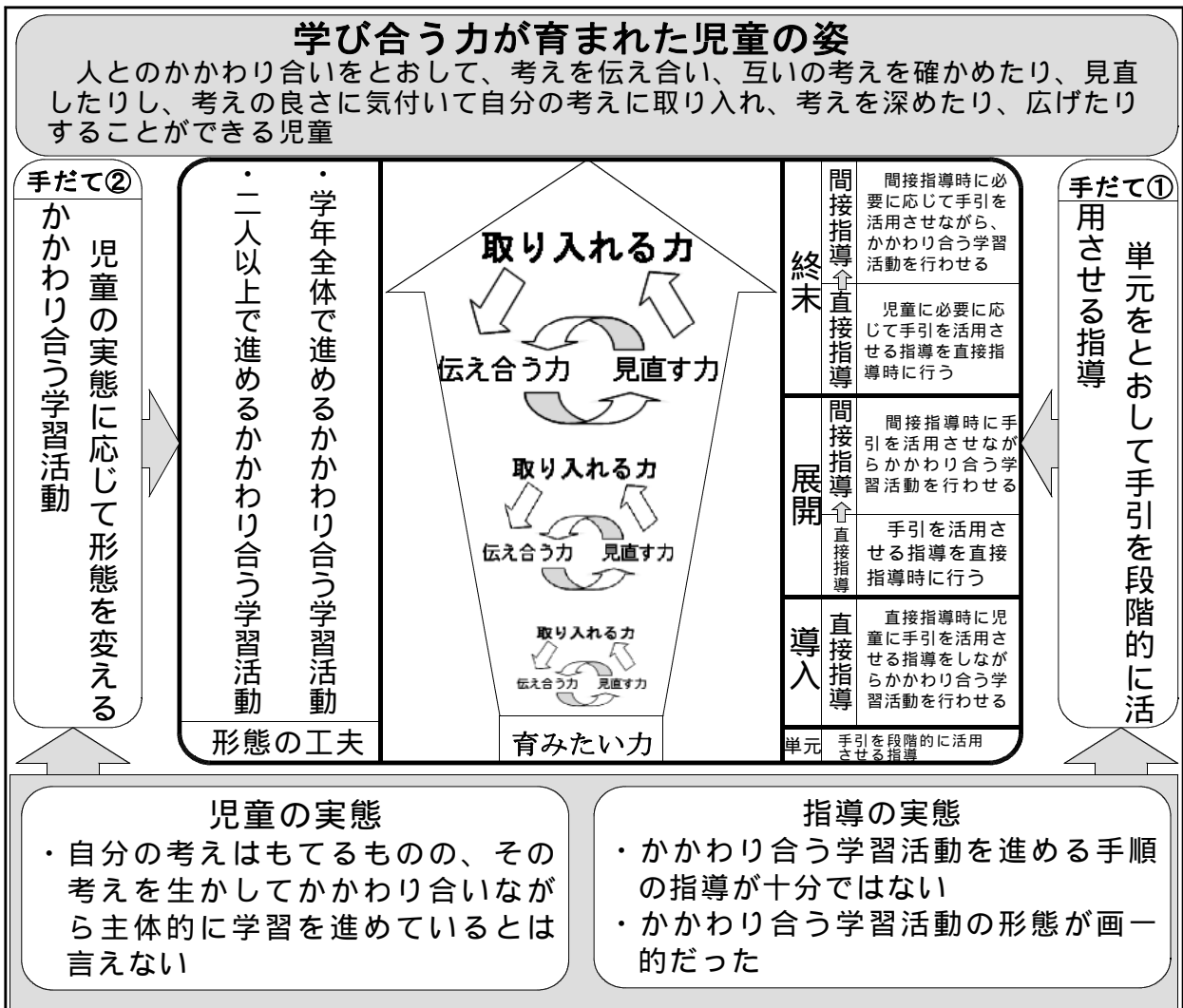
2 **かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた手だての試案**

基本構想に基づき、かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた手だての試案を、5頁の【図2】のように作成した。

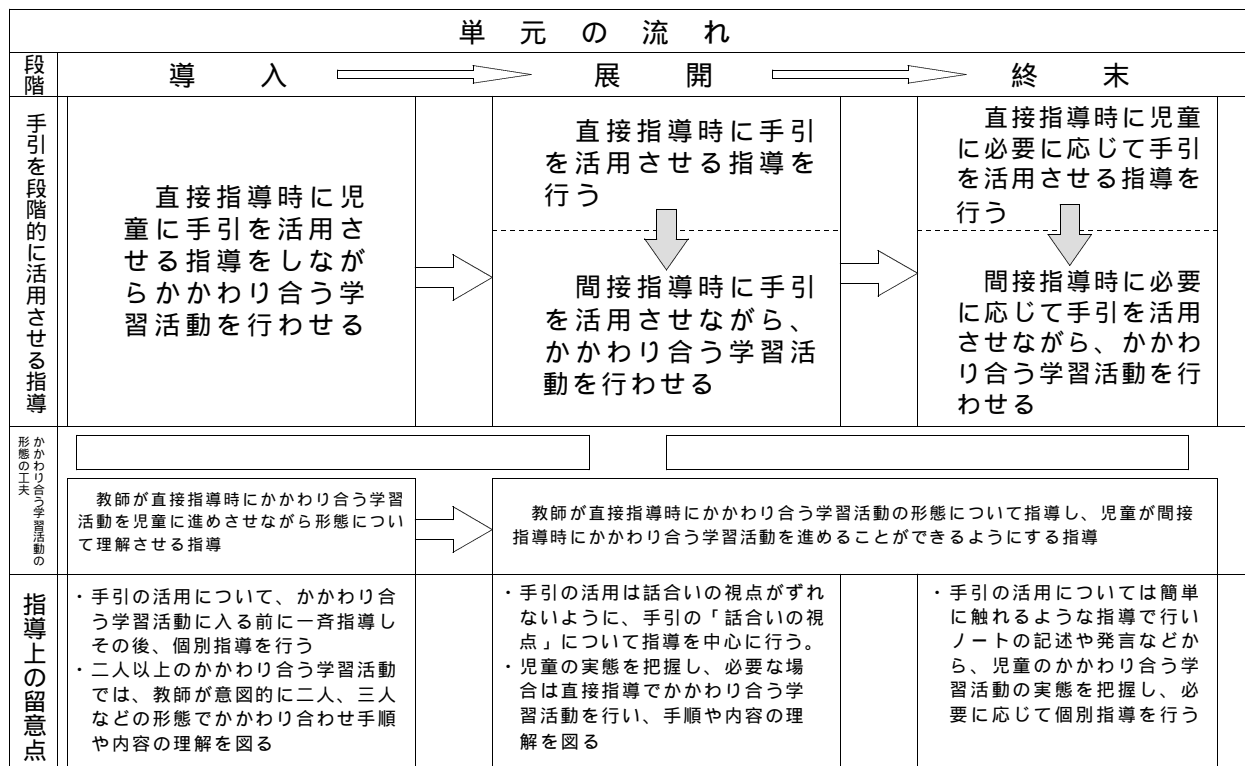
なお、今まで述べてきた基本構想、手だての試案を基に小学校算数科で実践した。

これから先は、小学校算数科における実践について述べるものである。また、授業実践は、3年「あまりのあるわり算」「大きい数のしくみ」、4年「わり算のひっ算(2)」の「数と計算」領域で行った。

授業実践を行う際、かかわり合う学習活動の二つの形態を、児童に分かりやすく提示するために、二人以上の人数で進めるかかわり合う学習活動の形態は、人数を変えたり、かかわり合う相手を変えたりしながら進めることから「チェンジスクラム」、学年全体で進めるかかわり合う学習活動の形態は、学年全員で協力して進めることから「オールスクラム」、かかわり合う学習活動を進める手引を「スクラム学習マニュアル」と名付けた。



【図1】複式学級における学び合う力を育む学習指導に関する基本構想図



【図2】かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた手だての試案

3 かかわり合う学習活動を進める手引を活用した小学校算数科における指導方法の工夫

(1) 小学校算数科におけるかかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法

ア 小学校算数科におけるかかわり合う学習活動の学習指導過程への位置付け

小学校算数科の一単位時間の学習指導過程の流れを「課題把握」「見通し」「自力解決」「解決の検討」「適用・発展」の五つの段階で進め、「解決の検討」の段階にチェンジスクラムとオールスクラムの二つのかかわり合う学習活動を位置付けて取り組むこととした。小学校算数科の学習指導過程へのかかわり合う学習活動の位置付けは、【図3】に示したとおりである。

イ 小学校算数科「数と計算」領域におけるかかわり合う学習活動を進める手引

3頁の【表2】手引の内容を基に、小学校算数科「数と計算」領域におけるかかわり合う学習活動を進める手引に載せる項目を7頁の【表4】のように作成した。

また、小学校算数科「数と計算」領域におけるかかわり合う学習活動を進める手引については、【補充資料1】に載せたとおりである。

(2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

ア 実態調査計画

(ア) 目的

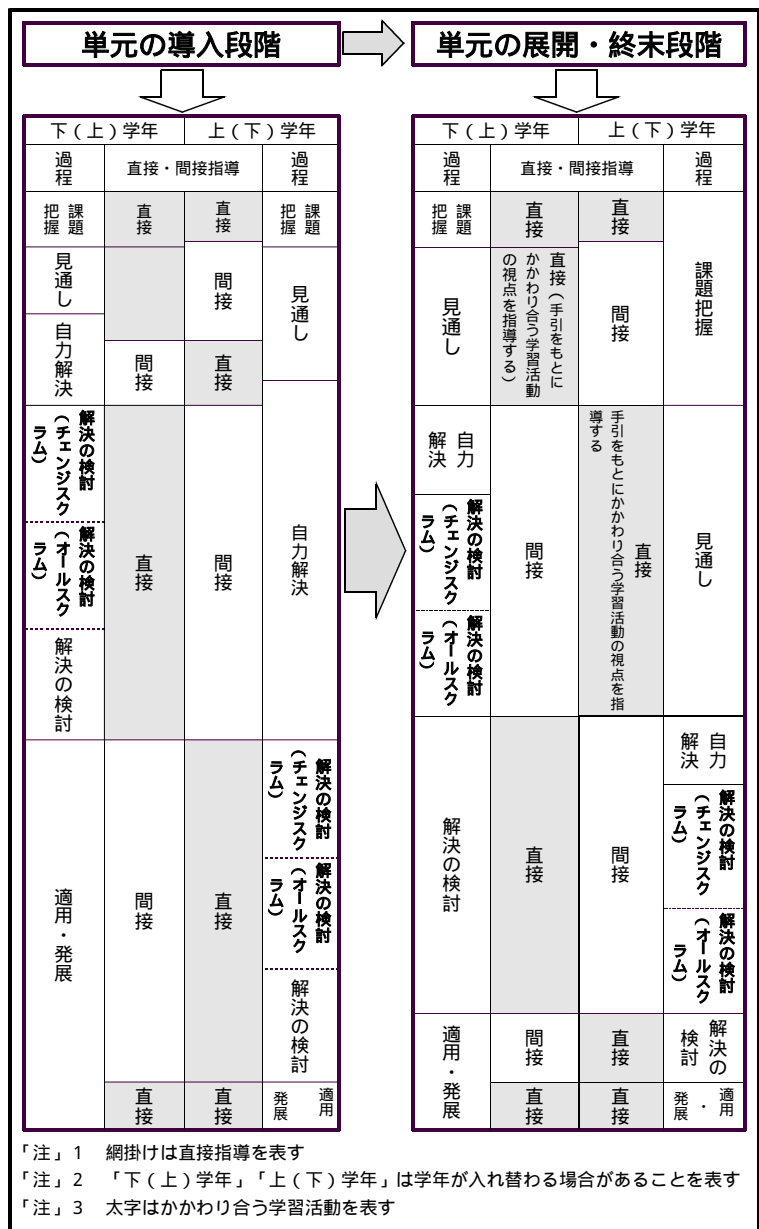
この調査の目的は、算数科の学習に関する児童の実態を把握し、かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法の工夫を取り入れた学習指導についての手だての試案作成に必要な資料を得ることである。

(イ) 調査の対象

花巻市立笹間第二小学校 第3学年(男子3名 女子1名)・第4学年(男子1名 女子3名)計8名

(ウ) 調査日時

平成17年7月25日(月)



【図3】指導過程へのかかわり合う学習活動の位置付け

【表4】手引に入れる項目

項目	内容	具体的な内容
自分の考えを伝えさせる	自分の考えのまとめ方や表現方法、発表方法について	自分の考えのまとめ方 ・絵、図、数直線などの表現方法を使うこと ・色を使ってまとめること ・既習事項を使うこと ・自力解決できないときのこと
		自分の考えの伝え方 ・何を使って表現しまとめたか伝えること ・相手に確かめながら伝えること ・記述しながら、物は実際に動かしながら伝えること
相手の考えを理解させる	考えを聞くときの留意点や質問について	聞く視点のもたせ方 ・表現方法を確かめること ・自分の考えと比べながら聞くこと ・理解できたことを伝えたり、分からないことを質問すること
		相手とかかわりながら聞く聞かせ方 ・相手の考えを確かめながら聞くこと ・自分と相手の考えを比べる視点のこと ・メモを取る
話し合いを進めさせる	話し合いの視点や進め方の手順について	話し合いの視点の示し方 ・話し合いの視点を付箋紙に書いて手引に貼り視点を明確にして話し合わせる ・オールのスクラムの進め方 ・話し合いを進める手順を示すこと
	考えの良さを見付ける観点	考えの良さの見つけ方 ・数理的な良さの観点を示すこと
	よりよい考えを見付ける観点	考えの良さを見付ける話し合い方 ・考えの良さを見付ける話し合いの観点を示すこと

(I) 調査と処理の方法

研究者が先行研究や参考文献をもとに作成した質問紙による調査を行う。

設問ごとに回答内容を分析し、考察する。

(オ) 調査の内容

実態調査の観点及び設問内容は、【表5】のとおりである。また、手だてにかかわる実態調査紙は【補充資料2】に載せたとおりである。

【表5】実態調査の具体的な観点と設問内容

調査の観点	設問内容	手だてへの生かし方
算数科の学習に関する児童の実態	算数の問題に取り組み、解決できない場合、先生や友達に聞くかどうか	自力解決の場面における支援を決める際の配慮事項の把握
	算数の時間に自分の考えを発表するとき、準備してから発表するかどうか	自分の考えを発表する準備をさせる場面の支援を決める際の配慮事項の把握
	発表の準備をする場合、どのような準備をするかどうか	
	算数の時間に友達の考えを聞くとき、わからないことがあった場合に質問するかどうか	他の児童の考えを聞く際の意識に対する配慮事項の把握
	質問しない場合、どうして質問しないのか	

(カ) 調査結果の分析と考察

実態調査の結果は8頁の【表6】にまとめたとおりである。

8頁の【表6】の設問1、「自力解決できない場合どうするか」の問いに対して、6名が「できるだけ考えるが、それでも分からないときは友達や先生に聞く」と答えている。しかし、「できるだけ考えるが、それでも分からないときは分からないままにする」と答えた児童が1名、「すぐに友達や先生に聞く」と答えた児童が1名いることから、この2名の児童には配慮が必要であることが分かる。

設問2-2では全員が発表の前にノートの見直しや練習をしていると答えていることから、発

表に対する意識が高いことが分かる。

設問3 - 1では5名が「どちらかという質問する」、3名が「質問する」と答えていることから、発表を聞いて分からないことがあれば、質問をして相手の考えを把握しようとしていることが分かる。

(キ) 手だての試案作成上の配慮事項

自力解決ができずにそのままにしてしまう児童や、すぐに友達や先生に聞く児童に対しては、教科書やノート、板書などを参考にして考えさせたり、どこまで分かって、どこから分からないのかを見付けたりすることができるように指導する。また、聞かれた児童はすぐに答えや解決方法を教えるのではなく、聞かれた相手の考えを把握し解決できるような助言をするように指導する。

全員が発表の準備をしているので、発表の準備はとらずに、チェンジスクラムやオールスクラムの時間を長くとるようにする。

相手の考えを把握しようとする意識が高いと考えられるので、相手の考えの良さについて見付けながら発表を聞くことを中心に指導する。

【表6】実態調査の結果

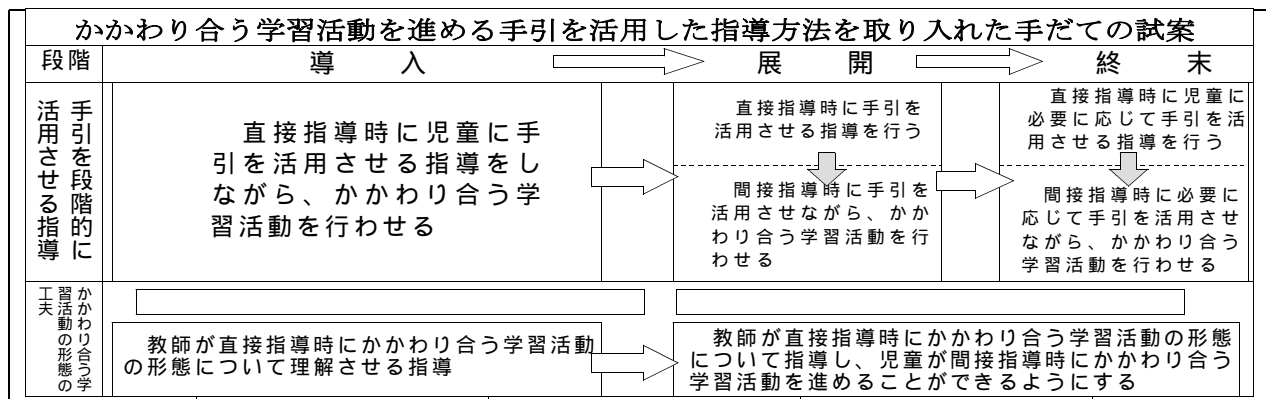
学年	設問	設問1	設問2 - 1	設問2 - 2	設問3 - 1	設問3 - 2
		児童	自力解決できない場合どうするか	発表の準備をするか	発表の準備をする場合どのような準備をするか	発表を聞いていてわからないことがあったら質問をするか
三年	A児	エ	準備をする	ノートを見直す	どちらかという質問する	全員が「質問する」「どちらかという質問する」と答えているので、回答無し
	B児	ウ	どちらかという準備をする	書いた順番を見直す	質問する	
	C児	イ	準備をする	練習をする	質問する	
	D児	エ	準備をする	ノートに書いたものを読む	どちらかという質問する	
四年	E児	エ	どちらかという準備をする	見直して、つけたしをする	どちらかという質問する	
	F児	エ	準備をする	ノートに書いたことを確かめる	質問する	
	G児	エ	どちらかという準備をする	もう一回見直しをする	どちらかという質問する	
	H児	エ	どちらかという準備をする	読む練習をする	どちらかという質問する	
<p>「注」設問1の選択肢「アイウエオカ」の内容は以下のとおりである ア：すぐにあきらめる　イ：すぐに友達や先生に聞く　ウ：できるだけ自分で考えるが、それでもわからないときにはわからないままにする エ：できるだけ自分で考えるが、それでもわからないときは友達や先生に聞く　オ：できるだけ考えるが、教科書やノートで調べる カ：その他</p>						

(3) 小学校算数科におけるかかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた手だての試案

5頁の【図2】に示した、かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた手だての試案を基に、かかわり合う学習活動を進める手引を活用した小学校算数科における指導方法の工夫と実態調査に基づき、小学校算数科におけるかかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた手だての試案を9頁の【図4】のように作成した。

(4) 検証計画

授業実践をとおして学び合う力の状況をとらえ、その結果により、手だての試案の有効性、仮説の妥当性について分析し、考察する。10頁の【表7】は検証計画、【表8】は学び合う力の変容状況を判断するための視点を示したものである。なお、事前事後の質問紙は【補充資料3】に示したとおりである。



《単元の導入段階の単位時間の指導過程》

《単元の展開・終末段階の単位時間の指導過程》

段階	学習活動と指導上の留意点
つかむ	1 問題を把握する ・立式する 2 学習課題を設定する
見通し	3 解決方法を見通す ・答えの予想 ・解決方法の予想 ・話合いの視点を定める
自力解決	4 自力解決に取り組む ・自分で決めた解決方法に取り組む ・複数の解決方法に取り組みさせる
解決の検討	5 解決方法の検討をする チェンジスクラム ・教師が、児童の学習の様子を把握し、人数、メンバーを決め、教師とともにチェンジスクラムを行わせる ・児童に手引を活用させながら、チェンジスクラムの内容や手順について理解を図る
	6 学習のまとめをする オールスクラム ・教師が手引の活用について児童に指導し、考えを発表させたり、それぞれの考えがもつ良さに気付かせたりしながら行わせる ・児童に手引を活用させながら、オールスクラムの内容や手順について理解を図る
	7 学習のまとめをする 直接指導 ・オールスクラムで見付けた考えの良さを確認しながら、解決方法についてまとめる
適用・発展	7 適用・発展問題に取り組む ・個に応じた問題数や内容で問題に取り組みさせる 8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表する ・考えの良さに目を向けた振り返りをさせる

段階	学習活動と指導上の留意点
つかむ	1 問題を把握する ・立式する 2 学習課題を設定する
見通し	3 解決方法を見通す ・答え、解決方法、話合いの視点を決めた後、手引の活用の指導、チェンジスクラム、オールスクラムの時間配分や形態について指導をする ・終末段階では手引の活用について触れる指導とする
	4 自力解決に取り組む ・見通しの段階での教師の指導を基に、手引を活用しながら自分の考えをまとめさせる
自力解決	5 解決方法の検討をする チェンジスクラム ・手引の内容を活用させ、分かりやすく考えを伝え合い、自分の考えを明確にしたり、分からないことを聞いたりさせながら活動するかかわり合いを行わせる
	6 学習のまとめをする オールスクラム ・手引の内容を活用させ、考えを発表したり、それぞれの考えがもつ良さに気付かせながらよりよい考えを見付けるようなかかわり合いをさせる
解決の検討	7 学習のまとめをする 間接指導 ・オールスクラムで話合った考えを教師に発表し、考えの良さを確認しながら、解決方法についてまとめる
	8 学習のまとめをする 直接指導 ・オールスクラムで話合った考えを教師に発表し、考えの良さを確認しながら、解決方法についてまとめる
適用・発展	7 適用・発展問題に取り組む ・個に応じた問題数や内容で問題に取り組みさせる 8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表する ・考えの良さに目を向けた振り返りをさせる

【図4】小学校算数科におけるかかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた手だての試案

【表7】検証計画

検証項目	検証内容	検証及び処理の方法
学び合う力の変容の状況	伝え合う力	・ビデオの記録による話し合いの様子から、伝え合いの状況を分析し、考察する
	見直す力 取り入れる力	・発言やノートの記述内容から、見直す力、取り入れる力のそれぞれにおいて、【表9】の学び合う力を判断する視点に関することが無ければC、一つの視点から記述や発言があればB、複数の視点から記述や発言があればAと判断し、分析、考察する
	伝え合う力 見直す力 取り入れる力	・事前と事後の意識の変容の状況を質問紙により児童に調査を行い、分析し、考察する
「注」検証は授業実践のうち、かかわり合う学習活動を行った時間に行う		

【表8】学び合う力の変容状況を判断する視点

構成要素	判断する視点
見直す力	有用性に着目している 図、表、数直線、式などの解決方法について記述・発言している 正確性に着目している 正しくできる、間違えにくいことなどについて記述・発言している
取り入れる力	簡潔性に着目している 分かりやすい、簡単にできることなどについて記述・発言している 能率性に着目している 早くできる、たくさんできることなどについて記述・発言している 既習事項との関連に着目している 既習の考えを用いて解決したことなどについて記述・発言している

4 授業実践及び実践結果の分析と考察

(1) かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた授業実践の概要




授業実践は平成17年8月23日から9月15日まで、花巻市立笹間第二小学校第3学年（男子3名 女子1名）・第4学年（男子1名 女子3名）計8名を対象として行った。単元名は3年「あまりのあるわり算」「大きい数を調べよう」、4年「わり算のひっ算（2）」である。なお、学習指導略案を【補充資料3】、授業実践の概要は11頁からの【資料1】～【資料3】に示したとおりである。

【資料1】授業実践の概要（単元の導入段階）

手引活用の指導

かかわり合う学習活動の指導や様子

児童の感想

単元の導入段階（第1時～第3時）	
手引の活用と形態の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 直接指導時に児童に手引を活用させる指導をしながら、かかわり合う学習活動を行わせる 直接指導時にかかわり合う学習活動をさせながら、その形態について理解させる
学 習 活 動	
ねらい 段階	<p>第1時 / 15時間 3年「あまりのあるわり算」 乗法九九を1回適用してできる除法で、あまりのある場合の計算方法の理解する</p>
自力解決（直接）	<p>導入段階における手引の活用とかかわり合う学習活動の指導</p> <p>自力解決前の「相手に伝えるためのじゅんぴのポイント」の手引活用の指導</p>  <p>T 絵、図を使って分かりやすくまとめましょう。まとめごとに色分けすると分かりやすいね。「みんなに伝えたいことはここだよ」と分かるようにしようね。 T では、$14 \div 4$に取り組もう。先生はみんなと一緒に学習していくので、聞きたいことがあったら聞いてね。</p> <p>自力解決前の「自分の考えを伝えるときのポイント」の手引活用の指導</p>  <p>A児 発表します。$14 \div 3$は、 T ちょっと待って。みんな、手引のを見てね。はじめに何に取り組んだか話そうね。 A児 はい。ぼくは、おはじきで$14 \div 3$をやりました。 A児（無言でおはじきを操作する） T 動かすときに説明すると分かりやすいよね。 A児 はい。3個ずつ分けるので3、3、3で、2個あまります。だから$14 \div 3$は4人に分けられて2枚あまります。 A児 ここまでどうですか。 T みんなに自分の考えが分かっただけか確かめているね。いいぞ。</p> <p>「話し合いのポイント」の手引活用の指導</p>  <p>T Cくんだけ引き算でやったんだよね。みんなと違う考えだね。手引を見てごらん。（中略）みんなの図やおはじきの考えと似ているところや違うところはないかな。 B児 はい。4つずつとるところが似ています。 T いいところに気付いたね。 A児 おはじきよりひき算の方が簡単にできると思います。 T 自分の考えと比べてC君の考えの良さを見付けているね。今のことは手引に書いてあるね。いいぞ。</p> <p>自分の考えの伝え方を指導したA児の感想</p> <p>今日は、あまりのあるわり算がよく分かりました。発表のしかたも分かったので楽しかったです。</p>
解決の検討（オールスクラム）（直接）	<p>第1時では、手引の活用についての指導時間を多く取り、チェンジスクラムは行わずにオールスクラムを行った。</p> <p>第2時からは、3分間の時間を設けて、チェンジスクラムを行わせた。他の児童に聞くときは、どこまで分かり、どこから分からないか話すことや、聞かれたときには相手に参考になる考えを手引を見てアドバイスするように、かかわり合い方の理解を図った。</p> <p>オールスクラムでは、発表に入る前に、手引の「自分の考えを伝えるポイント」と「相手の考えを聞くときのポイント」の内容を指導した。また、発表時にも自分の考えを相手に分かりやすく伝えるために、手引を活用するように児童に促した。</p> <p>第1時～第3時における児童の様子</p> <p>第1・2時のオールスクラムでは、自分の考えを発表するだけで終わってしまうことが多かった。しかし、第3時では手引を活用しながら発表したり、考えの良さを見付けようと手引を参考にする姿がみられた。「ぼくと同じで～です（違います）。」「ここはどんな意味ですか」などの発言や質問が出るようになった。</p> <p>また、第3時のノートには「図が色を使っていて分かりやすいです。」「図やひき算でもできました。こんなやり方があるなんてびっくりしました。」など、手引を活用させたことで解決方法に着目させることができ、考えの良さについての記述が見られた。</p>

【資料2】授業実践の概要（単元の展開段階）

□ 手引活用の指導

◻ かかわり合う学習活動の指導や様子

○ 児童の感想

単元の展開段階（第4時～第10時）	
手引の活用と形態の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・直接指導時に児童に手引の活用について指導する ・児童が間接指導時に手引を活用してかかわり合う学習活動を進める ・教師がかかわり合う学習活動の形態を直接指導し、児童が間接指導時に進める
学 習 活 動	
<p>第7時 / 15時間 4年「わり算の筆算(2)」</p> <p>3位数 ÷ 2位数 = 2位数の筆算の仕方を理解し、その計算をすることができる(345 ÷ 21)</p>	<p>展開段階における手引の活用とかかわり合う学習活動の指導</p> <p>第4時から間接指導時にかかわり合う学習活動を行わせる段階的な指導を行った。見通す段階の直接指導で手引の内容について確認するとともに、かかわり合う学習活動の話合いのポイント、時間、形態について指導した。</p> <p>課題解決の内容によっては、全員が自力解決できる場合もあるので、そのときは全員で話合い、二人以上のかかわり合う学習活動が必要がないと判断した場合は、オールスクラムを行うように指導した。</p>
<p>見通し（直接）</p> <p>「相手に伝えるじゅんぴのポイント」と「今日の話合いのポイント」の手引活用の指導</p> <p>T 自分の考えを発表するときに相手が分かるようにまとめていこうね。今日のポイントは商が立つ位だよ。手引を見ながら分かりやすくまとめよう。</p> <p>チェンジスクラム（二人以上のかかわり合う学習活動）についての指導</p> <p>T 一人で5分取り組んだら、3分間は二人以上のかかわり合う学習活動をして考えを確かめてもいいです。その時には商のたつ位に気をつけて話し合ってください。</p>	<p>第4時～第10時における児童の様子</p> <p>直接指導でチェンジスクラムの進め方について指導してきたことで、間接指導でも、児童は抵抗なく進めることができた。また、二人で解決できないときは、課題を解決するために、人数を増やししながらチェンジスクラムを行っていた。</p> <p>チェンジスクラムで、アドバイスする側の児童が、自分の考えの間違いに気付くこともあった。また、答えや解決方法をすぐに教えるのではなく、どこまでできているのか理解し、アドバイスすることができるようになってきた。</p> <p>オールスクラムの発表では、チェンジスクラムで学んだことを紹介することもみられた。また、手引の手順を見ながら、互いに声を掛け合い全員がかかわり合う学習活動を進めていた。</p> <p>第7時前後から「自分たちで話合って考えました。勉強になりました。」などの話合いについての記述がみられるようになった。</p>
<p>解決の検討（チェンジ・オールスクラム）（間接）</p> <p>チェンジスクラム（間違いに気付いた場面）</p> <p>H児 十の位に1がたつのは分かったけど、一の位はどうすればいいの。</p> <p>E児 5をおろして135にするんだよ。</p> <p>H児 あっ、分かった。</p> <p>E児 やってみて（二人で計算する）</p> <p>H児 できた。16あまり9だよ。</p> <p>（E児は、H児に教えた後に、自分の席に戻り、自分のノートを見る）</p> <p>E児 あっ。間違っていた。良かった。（あまりは9だが計算間違いで6と書いていた）</p> <p>チェンジスクラムとオールスクラム（教えられたことを発表した場面）</p> <p>F児 十の位に1をたてるんだよ。</p> <p>G時 そうだよ。</p> <p>F時 でも、変になっちゃうんだ。</p> <p>G児 やってみて。（F児は計算してみる。）</p> <p>G児 一の位から書くんじゃなくて十の位に1、百の位に2だよ。やってみて。</p> <p>F児 あ。できた、できた。</p> <p>G児 わかりにくかったら、前みたいに線を書くと分かりやすいよ。（G児に教えてもらった後、オールスクラムのF児の発表）</p> <p>F児 私は自分で考えてもだめだったので、Gさんに教えてもらいました。かけた答えを一の位から書いてしまったので間違っていました。Gさんに十の位から書くことを教えてもらってできました。</p> <p>授業後のF児の感想</p> <p>みんなと違うやり方、答えになってどうやるか分かりませんでした。でも、Gちゃんが教えてくれたので分かりました。</p>	

【資料3】授業実践の概要（単元の終末段階）

手引活用の指導

かかわり合う学習活動の指導や内容

児童の感想

単元の終末（第11時～第15時）

手引の活用と形態の工夫
 ・直接指導時に、児童に必要なに応じて手引の活用について指導する
 ・間接指導時に、必要なに応じて手引を活用させながらかかわり合う学習活動を行わせる
 ・教師がかかわり合う学習活動の形態を直接指導し、児童が間接指導時に進める

ねらい
 段階
 学 習 活 動
 第11時 / 15時間 3年「大きい数のしくみ」
 数の相対的な大きさについて理解する

終末段階における手引の活用とかかわり合う学習活動の指導

手引の内容については「自分が必要なときに見てください。」という指導を行い、児童が必要に応じて手引を活用するようにした。必要と思われる児童には、見通しの段階で手引の活用について個別指導を行い手引の活用を促した。かかわり合う学習活動では、話合いの視点について確認する指導を行い、チェンジスクラムやオールスクラムで話合いの視点がずれないように指導を行った。

第10時～第15時における児童の様子

終末段階では、かかわり合う学習活動に手引を持ち、内容を確認して取り組む児童、手引を持たずに自信をもって取り組む児童など、個人差がみられた。しかし、話合いにあまり参加できなかった児童も、手引を活用し、自分の考えを発表したり、相手の考えを聞いたりしながら話し合っていた。授業後の感想に「いっぱい話し合って、楽しかったです。」と書いていることから、かかわり合う学習活動の内容や手順の理解については個人差はあるが、話し合う楽しさや良さを感じ取った様子であった。

単元の導入からかかわり合う学習活動の時間配分について指導を行ってきたが、単元の終末になると、時間があまったときや足りないときは自分たちで話し合い、時間調整することができるようになった。

終末段階の感想では、「Aくんに、0をつけるって教えてもらいました。」「話し合って自分たちで考えをまとめることができました。」など、話し合って考えをまとめることについての記述もみられた。

終末段階では、チェンジスクラムが解決の検討場面だけでなく、発展・適用場面の計算練習等でも自然に行われている様子がみられ、自分から他の児童に積極的にかかわり、考えを交流することができていた。

D児に手引の活用を促す個別指導を行った後のオールスクラムの発表



（チェンジスクラムで、D児はA児から、14000を一万と四千に分けると考えやすいとアドバイスされ、自力解決することができた。D児は、発表の前に手引を見て何から話すか確認する）

D児 私は計算でやりました。Aくんに14000を一万と四千に分けると分かりやすいと教えてもらったので、分けて考えました。（ノートを指差しながら）一万は千が10個で、四千は千が4個なので（ノートに書き入れながら）10と4をたして14になりました。

（C児は手引を持ち、確認しながら発表を聞いていた）

D児の発表後のオールスクラム



C児 ここに書いてあるのは何ですか。
 D児 一万は、1000が10個だから10と書いて手は4個だから4と書いてたし算をします。だから14です。

A児 はい。図だと思ったけど、計算だったのですごいと思いました。

B児 ぼくはDさんの発表を聞いて、練習もしていないのにちゃんと説明していて、計算もわかりやすかったのすごかったです。

C児 ぼくも、Dさんがスクラム学習マニュアルに書いてあること（指さしたり、ノートに書き足したこと）を使っていて、すごいと思いました。

A児 前にならった方法（位を分けてたし算する）でやっていたのでわかりやすかったです。

B児 質問です。4の上に0を書いているのは何ですか。

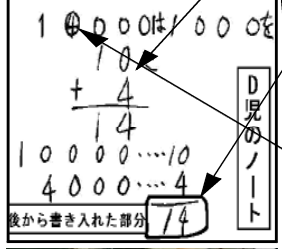
D児 これは、4を0にしたら一万になる（分ける）から4の上に0を書きました。

B児 はい（ノートを指差し）これは上か下に（0を書く行を）ずらした方が分かりやすいと思います。

D児 でも、ここに（上の行を指さし）0を書くと、後から見るときにわからなくなって、「これはなんだ。」と思うかもしれないからここに書きました。

B児 でも、これも後から「なんじゃ、これ。」となるんじゃないかなあ。（みんなで笑う）

C児 みんなと違うこと（計算）を書いていたので、みんなより分かりやすいなあと思いました。



授業後のD児の感想

（14000を）分けると、Aくんに教えてもらいました。分かったので、これからも分けて考えたいです。

解決の検討（チェンジ・オールスクラム）（間接）

(2) 実践結果の分析と考察

ア 「伝え合う力」の育成状況について

【資料4】は第4学年の第7時におけるチェンジスクラムにおける様子である。

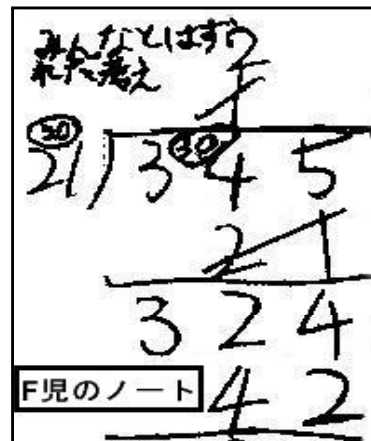
F児のは、自分のやり方を説明しながら、どこからできないかということ伝えてようとしている。そして、話しかけられたG児はのように、すぐに計算方法を教えるのではなく、F児がどこで間違っているのか把握しようと、計算してみるように促している。G児はF児の計算方法を見て、位取りの間違いをしていることに気付き、のように位取りについてのアドバイスを伝えている。また、同じ間違いをしないように、のように位取りの縦線を書くアドバイスをしている。

このように、自分が分からないことをただ伝えるのではなく、どこまでが分かってどこから分からないか伝えたり、相手の考えを把握するために質問したりすることをおして、互いの考えをより理解するために伝え合っている様子が分かる。

【資料4】4年生 第7時におけるチェンジスクラムの様子

4年 第7時 チェンジスクラム(345÷21 十の位から商がたつ筆算)
(自力解決の時間が終わり、二人以上でかかわり合う学習活動の時間になったが、F児が計算方法が分からなくて自力解決できず、G児に声をかけたチェンジスクラムの様子である)

F児 Gちゃん。間違ってるかもしれない。計算できないんだ。十の位に1を立てるんだよね。
G児 そうだよ。
F児 でも計算するとあまりが変になっちゃうんだよ。
G児 どれ、やってみて。
F児 (ノートに書きながら説明する)
十の位に1をたてて、 1×1 は1、 1×2 は2。
(1を1の位、2を十の位に書いてしまう)
G児 あっ。違うよ。
一の位から書くんじゃないで十の位にたてたんだから、
十の位に1(指さす)百の位に2だよ。
やってみて。
F児 (計算をしてみる。G児は計算する様子を見守っている)
あっ。できたできた。
G児 分かりにくかったら、前みたいに位に線を書くと分かりやすいと思うよ。



15頁の【資料5】は3年生の第11時におけるオールスクラムの様子である。

B児のは、発表を聞いた後に、A児が書いた200と50のように、20を10と10に分ける表現方法をアドバイスをしている。しかし、B児の発言はA児にうまく伝わらなかったため、B児は自分から黒板に出て行き、A児の考えに付け足しをして自分の考えを伝えている。次に、C児はのように、B児の20を10と10に分ける考えを自分の考えに取り入れ、25を20と5に分ける表現方法を使い発表している。そして、C児の発表に対してB児はのように表現方法についてアドバイスをしている。発表を聞いていたA児は、B児の考えを生かした表現方法であることに気付き、のようにB児の考えを生かしていることについて伝えている。また、この時間のC児の感想には「発表のときに、B君から教えてもらいました。これからはこの考えを使います」とノートに記述している。

このように、問題の解決だけに注目するのではなく、表現方法の良さや解決の効率性にも着目し、考えを伝え合っていることが分かる。

これら二つのかかわり合う学習活動の様子から、二人以上でかかわり合う学習活動であるチェンジスクラムを取り入れたことで考えを伝え合う機会が増え、相手に自分の考えを理解して

【資料5】3年生 第12時におけるオールスクラムの様子

3年 第12時 オールスクラム（大きな数 整数を10倍した数の表し方）
 （20の10倍の学習後、間接指導時に「25の10倍はいくつ」の問題に取り組ませた。自力解決の時間はとらずに、かかわり合う学習活動を行わせた様子である。）

- A児 ぼくは25を分けて考えました。25を20と5に分けて、20を10と10に分けて、10の10倍は100なので200、5も10倍して50だから250になります。
- B児 質問です。20を10と10と書いていますけど、どういう意味ですか。
- A児 20を10と10に分けることです。
 （A児は25を頭の中で20と5に分けている）
- B児 じゃあ、200と50みたいに、さくらんぼ計算みたいに分ける（250に補助線を引いて、200と50に分けること）といいと思います。
- A児 どうすればいいのかなあ。
- B児 （黒板に出てきてA児の考えに付け足して書く。）
 （20に矢印をつけて、10と10に分ける。）
 このように書きます。
- A児 分かりました。
- C児 違うやり方があります。ぼくは、Aさんとちょっと同じなんですけど。（黒板に書きながら）25を20と5に分けて、どっちにも10倍して、こたえは250だと思います。
- B児 25をAさんみたいに分けて20と5にして、さらに10倍にしていますが、5と書いて矢印を書いて50。20と書いて矢印を書いて200と書いた方が分かりやすいです。でも、この図は分かりやすいです。
- A児 Bさんがさっき書いたのを生かして、前は10と10だったんだけど、今度は20と5なのでBさんの考えを生かしたんだと思いました。



もらおうとしたり、相手の考えを理解しようとしたりする伝え合う意識を高める上で有効に働いたと考える。また、考えを伝え合うことによって数理的な良さに気付き、その考えを見直して、自分の考えに生かすことができた。これは、手引を段階的に活用させたことにより、時間を追う毎に手引の内容が意識付けされ、分かりやすく伝えたり、理解したりしようとする意識が高まったと考えられる。

以上のことから、「伝え合う力」は概ね育成されたと考える。

イ 「見直す力」の育成状況について

16頁の【図5】は10頁の【表7】の検証計画に基づいて「見直す力」の変容状況をまとめたものである。

単元の導入である第1時から第3時までにはB、C段階が多く見られるが、単元の終末の3年生第11時、4年生10時以降はA段階が多くなっている。また、【資料5】3年生の第12時における話合いと対応するように、3年生の第12時には4名全員がA段階になっている。

これらのことから、単元の導入から終末にかけ、徐々に「見直す力」が高まっていることが分かる。また、「伝え合う力」の高まりによって「見直す力」が高まっていったことが分かる。

これは、次のような理由からであると考えた。

児童に、手引に載せた考えの良さの観点に着目させ、互いの考えの良さに気付かせてきた。このことで、児童に互いの考えの良さを認め合う意識付けができ、自分の考えを確かめたり、見直したりさせることができた。また、時間を追う毎に「伝え合う力」が高まったことによって、考えを詳しく理解できるようになった。これらのことが有効に働き、考えを比べながら、自分の考えを確かめたり、見直したりすることができたと思われる。

以上のことから見直す力は概ね育成されたと考える。

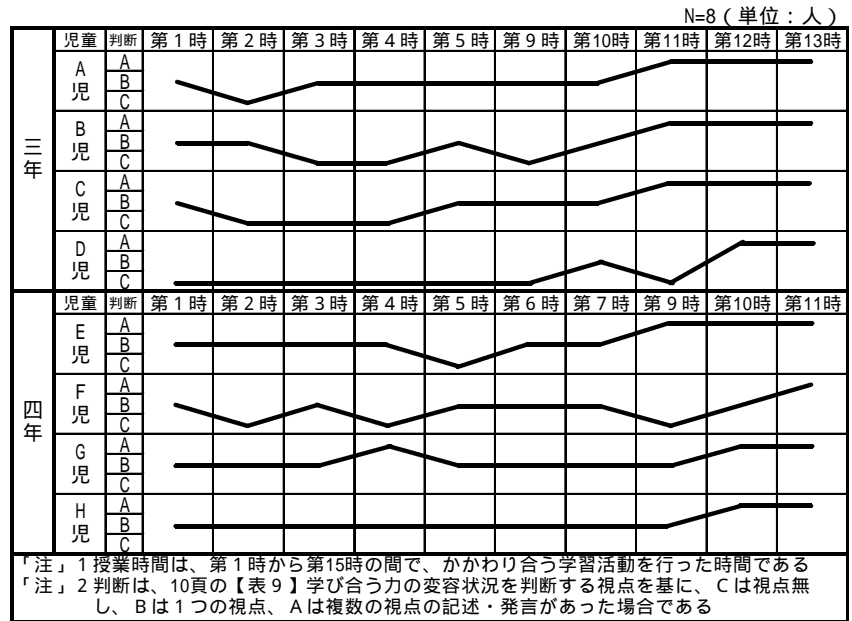
ウ 「取り入れる力」の育成状況について

【図6】は10頁の【表7】の検証計画に基づいて「取り入れる力」の変容状況をまとめたものである。

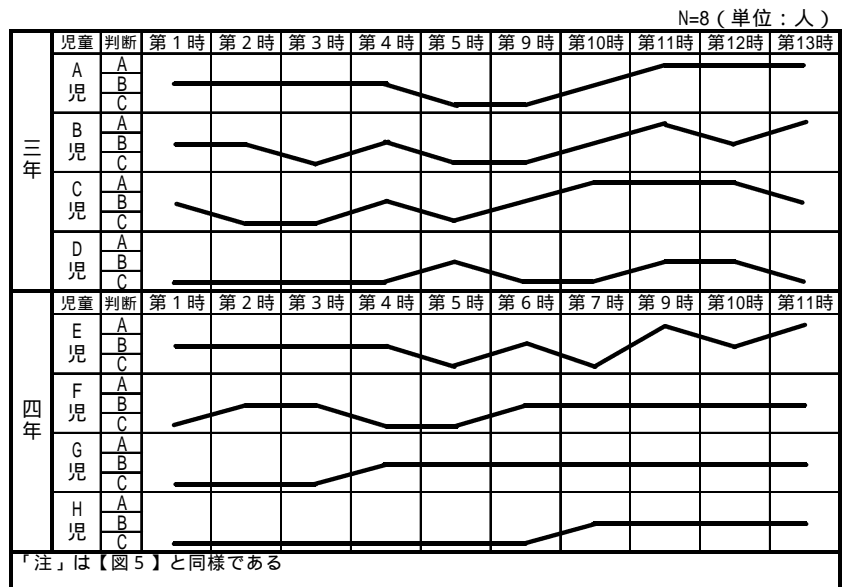
単元の導入段階ではB段階、C段階が多く見られたが、終末ではB段階、A段階が多くなっている。また、終末段階でB段階の児童が約半数みられるが、個人毎の変容を見ると、導入段階と比較して終末段階は高まっているといえる。これらのことから、変容は小さいものの「取り入れる力」は単元をとおして、徐々に高まっていったことが分かる。

また、単元の終末段階におけるノートの記述や発言には、「自分たちで考えをまとめました。楽しくできました。」「最初はできなくて困ったけど、みんなに教えてもらってできるようになってうれしかったです。」「これからは教えてもらった考えを使います。」などが見られた。このことから、互いの考えをかわり合わせて見付けた考えの良さを、自分の考えに取り入れようとしていることが分かる。

さらに、間接指導時に、児童が話し合っ



【図5】見直す力の変容状況



【図6】取り入れる力の変容状況

が話し合っ

これらのことは、次のような理由からであると考えた。

児童に、手引を段階的に活用させる指導をしながら、互いの考えの良さに気付かせてきたことによって、考えの良さを見付けて認め合えるようになり、見付けた考えの良さを自分の考えに取り入れようとする意識が高まったと考えた。また、かわり合う学習活動の形態を工夫したことにより、児童に、より多くのかわり合う学習活動を経験させたことで、様々な考えの良さに気付かせることができ、気付いた考えの良さを取り入れようとする意識を高めたものと思われる。

これらのことから、取り入れる力は概ね育成されたと考える。

しかし、B段階のまま変化がない児童や、C段階の児童も見られる。これらの児童の授業後の感想の記述を見ると、考えの良さに着目する視点が簡潔性や能率性に偏っていた。これは、考えの良さに様々な視点で気付かせる指導が少なかったからではないかと考えた。また、第5時間後にC段階が多くなった。これは、手引を段階的に活用させる指導により、かかわり合う学習活動を直接指導で行っていた時間から間接指導時に移行した結果、考えの良さを見付けようとする意識が下がり、取り入れる意識も下がったのではないかと考えた。

エ 事前事後の意識の変容状況について

【表9】は、学び合う力の事前事後の意識の変容状況について10頁の【表7】の検証計画に基づいて質問紙を作成し、授業実践の事前と事後に調査を実施した結果をまとめたものである。

事前にマイナス傾向だった児童も、事後ではB児の問3がマイナス傾向のままであった以外は、プラスに変容している。

設問毎、また、個人毎に見ても、変容していない児童は数名いるものの、児童全員が概ね好ましい方向に変容し【表9】学び合う力の事前事後の意識の変容状況 N=8(単位:人) ことが分かる。

このことから、かかわり合う学習活動を進める手引の内容を段階的に指導し、かかわり合う学習活動の手順や内容を理解させたり、形態を工夫したりしたことが児童に有効に働いたものと思われる。また、どの項目においても好ましい変容が見られたことは、

調査項目		児童							
		3年				4年			
		A	B	C	D	E	F	G	H
伝え合う力	問1	アイウエ	↑	↑		↑	↑	↑	↑
	問2	アイウエ	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
見直す力	問3	アイウエ	↑		↑	↑	↑	↑	↑
	問4	アイウエ	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑

「注」1 事前調査は8月22日、事後調査は9月15日に実施したものである。
「注」2 選択肢の尺度は次の通りである。
問1 ア「する」(++) イ「どちらかというとする」(+)
ウ「どちらかというとしない」(-) エ「しなない」(--)
問2・問3 ア「見つける」(++) イ「どちらかというで見つける」(+)
ウ「どちらかというで見つけない」(-) エ「見つけない」(--)
問4 ア「といている」(++) イ「どちらかというといっている」(+)
ウ「どちらかというといっていない」(-) エ「といていない」(--)
「注」3 表中の は変化なしを表し、矢印は変容の状況を表す。
「注」4 点線より上がプラス傾向、下がマイナス傾向を表す。

学び合う力の構成要素の「伝え合う力」「見直す力」「取り入れる力」が時間を追う毎に相互にかかわり合いながら高まっていったためと考えられる。

以上のことから、学び合う力の意識は好ましく変容したと考える。

5 複式学級における学び合う力を育む学習指導に関する研究のまとめ

かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法の工夫について、小学校算数科における授業実践において明らかになったことを成果と課題の二点にまとめる。

(1) 成果

ア 単元をとおして手引を段階的に活用させる指導を行ったことによって、児童に手引の内容を理解させることができ、自分の考えを分かりやすく伝えたり、理解しようとしたりする意識が高まり、かかわり合う学習活動が活発に行われるようになった。

イ 児童に手引を活用させながら考えの良さを見付ける指導を継続してきたことによって、間接指導時のかかわり合う学習活動で自分たちが見付けた考えの良さを、大切な良さとしてとらえさせることができ、自分の考えに積極的に取り入れさせることができた。

ウ 児童の学習の理解度に応じて人数やメンバーを変え、多様なかかわり合う学習活動を経験さ

せたことによって、進んで自分と相手の考えを比べられるようになり、相手のつまづいているところを把握してアドバイスをすることができた。また、アドバイスをすることをおして自分の考えを再度見直し、自分の間違いに気付くことができた。

(2) 課題

ア 児童の考えの良さに着目する視点が、簡潔性や能率性に偏ることなく、様々な視点で気付かせることができるように具体的な例を手引に載せるなど、手引の内容を検討すること。

イ かかわり合う学習活動を直接指導から間接指導に移行する際に、児童の考えの良さを取り入れる意識が下がらないようにするために、単元をとおして手引を段階的に活用させる指導を細かく行うなど、段階的な指導について検討すること。

以上のことから、いくつかの課題はあるものの、かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた手だての試案は有効であり、複式学級における学び合う力を育むために効果があったものとする。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

この研究は、複式学級において、かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法の工夫をとおして、学び合う力を育む学習指導について明らかにし、複式学級の学習指導の改善に役立てようとするものであった。その結果、仮説の妥当性を確かめることができた。なお、成果として得られたことは、次のとおりである。

(1) 複式学級における学び合う力を育む学習指導に関する基本構想

複式学級における学び合う力を育む学習指導についての基本的な考え方として、かかわり合う学習活動を進める手引の内容と手順を児童に理解させるために、単元の導入、展開、終末と段階的な指導を設定した。また、かかわり合う学習活動に「チェンジスクラム」と「オールスクラム」の二つの形態を位置付けた指導を取り入れ、基本構想を明らかにすることができた。

(2) かかわり合う学習活動を進める手引を活用した手だての試案の作成

基本構想に基づき、かかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた手だての試案を作成することができた。

(3) かかわり合う学習活動を進める手引を活用した小学校算数科における指導方法の工夫

基本構想、手だての試案に基づき、かかわり合う学習活動を進める手引を活用した小学校算数科における指導方法の工夫について立案することができた。

算数科の学習に関する児童の実態を調査し、分析と考察を行い、小学校算数科におけるかかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた手だての試案作成の配慮事項として役立てることができた。

かかわり合う学習活動を進める手引を活用した手だての試案、小学校算数科におけるかかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法の工夫と実態調査に基づき、複式学級における学び合う力を育むため小学校算数科におけるかかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた手だての試案を作成することができた。

(4) 授業実践及び実践結果の分析と考察

小学校算数科におけるかかわり合う学習活動を進める手引を活用した指導方法を取り入れた手だての試案に基づいて授業実践を行い、検証計画に基づいた実践結果の分析と考察により、複式学級における学び合う力を育成する上で有効であることを確かめることができた。

(5) 複式学級における学び合う力を育む学習指導に関する研究のまとめ

実践結果の分析と考察に基づき、複式学級における学び合う力を育む学習指導について、成果と課題を明らかにすることができた。

2 今後の課題

本研究を今後より生かすための課題として次のようなことが考えられる。

- (1) 低学年や高学年の児童の実態や発達段階に応じた手引を作成し、手引の活用方法やかかわり合う学習活動の進め方について検討を進めること。
- (2) 算数科「数と計算領域」以外の領域や他教科等でのかかわり合う学習活動の内容や手順について手引の検討を進めること。

おわりに

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童のみなさんに心から感謝申し上げ、結びのことばといたします。

【引用文献】

佐伯胖(1998),「豊かな人間性・社会性をどうとらえるか 学び合う力を育てる」『教職研究1998 / 5増刊』, pp. 20 - 21, 教育開発研究所

【引用Webページ】

羽黒第一小学校編(2004), <http://www.inetshonai.or.jp/~haguro01/koukaiken-purezen.pdf>, p. 5

【参考文献】

阿部真由子(2003),「小規模校における学ぶ意欲を高める指導方法と学習形態に関する研究 - 指導の展開例の作成と活用方法の提示をとおして - (第2報)」『研究集録』, 平成15年度, 岩手県教育センター

岩手県教育委員会事務局指導課編(2000),「複式指導資料第21集(平成12年度)」『岩手の小規模・複式指導ハンドブック - 国語・算数・生活・音楽・家庭・道徳 編 - 』

全国へき地教育研究連盟編(1998),「21世紀を拓く教育シリーズ」『学習指導方法の工夫・改善 - へき地・小規模・複式学級を有する学校の実践的事例 - 』

全国へき地教育研究連盟編(2001),「21世紀を拓く教育シリーズ」『ふるさと発『生きる力』を育む教育の創造 - へき地・複式・小規模学校の課題解明へのアプローチ - 』

新潟大学教育人間科学部付属新潟小学校(2002),「学校改革への提言2」『学習スキルで授業を変える』, 明治図書

西川純(2000),『学び合う教室』, 東洋館出版

補充資料

目 次

【補充資料 1】小学校算数科「数と計算」領域におけるかかわり合う学習活動を進める手引...資 1	資 1
【補充資料 2】手だてにかかわる実態調査紙	資 3
【補充資料 3】事前事後の質問紙（学び合う力の意識）	資 4
【補充資料 4】第 3・4 学年複式算数科学習指導略案	資 5



スクラム学習マニュアル1

チェンジスクラムやオールスクラムの発表の時に使しましょう。

1

自分の考えを伝えるとき

2

相手に伝えるためのじゅんびのポイント

- ・ 絵、図、線分図、数直線、表などを使って分かりやすくまとめる。
- ・ 色分けしてわかりやすくかく。
- ・ 前に見つけた考え方を使ってわかりやすくする。
- ・ かんたんな数などにかえてわかりやすくする。

もし、と中までしか考えられないときはつぎのことに気をつけよう。

- ・ 自分は何（絵、図、計算など）に取り組んでいるかはっきりさせよう。
- ・ どこまで分かって、どこからわからないか考えておこう。

じゅんびができたたら自分の考えを伝えよう

自分の考えを伝えるときのポイント

- ・ はじめに、何を使って考えたか話そう。（算、絵、図、線分図、数直線、表など）
- ・ 伝える時には、「ここまでいいですか」など、相手にたしかめながら話そう。
- ・ 話すだけではなく、矢じるしをかきいれたり、色をぬったりして説明する。物は動かしながら説明する。など、伝えるくふうをしよう。
- ・ 質問に答えたり、気がついたことをつけたしたりしながら話し合おう。

3

相手の考えを聞くとき

4

ポイント1（相手の考えをしっかり聞こう）

- ・ 話す人がどんな方法で考えたのかたしかめよう。（算、絵、図など）
- ・ 自分の方法と同じところや、ちがうところを見つけよう。
- ・ 聞きながら、分かったときにはうなずいたり、あいづちを打ったりして相手に自分が分かったことを伝えよう。
- ・ 自分と同じ考えのときには「～のところが同じです」と発言したり、わからないことは質問したりしよう。

ポイントができたらポイント2もしてあげよう

ポイント2（相手の考えをくわしく聞こう）

- ・ 聞きながらわかったことは、「だよね」「ということですね」など、相手にたしかめよう。
- ・ 自分の方法と相手の方法のどこが同じで、どこがちがうかみつけよう。方法がちがっても同じところや、方法が同じでもちがうところがあるかもしれないよ。
- ・ 気づいたことや考えたことをメモをしておいて、質問したり、発表しよう。
- ・ 聞いて終わりではなく、質問をしたり、聞いて見つけたことや考えたことを発表したりして話し合おう。

5

伝え合うときに気をつけよう

- ・ 話して終わり、聞いて終わりにならないように、質問したり、気がついたことを発表したりする。考えの良いところ、もっとこうすると良いと思うところを話したり、考えたりしよう。
- ・ 自分が気づいたこと、考えたことがあったら、どんどん伝えてみんなで考えていこう。
- ・ 課題（問題）の中心にそって話したり、考えたりしよう。
- ・ だれと話し合っ、何が分かったかメモを書いておこう。



スクラム学習マニュアル2

オールスクラムの時に使しましょう。

6

今日の話し合いのポイントは

何について話し合うか
内容とポイントを確認
めよう

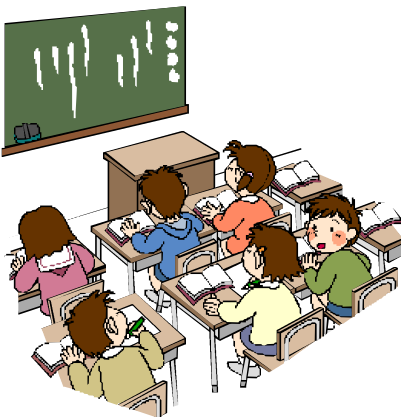
スクラム学習マニュアル1を使い、相手に
分かりやすいように自分の考えを伝えたり、相手
の考え方をくわしく聞こう。

自分の考えを発表し、
みんなの発表を聞こう

7

まず、自分の方法とくらべてみよう。
・同じところや、違うところを見つけよう
それぞれの方法にはどんな良さがあるかな。
・かんたんにできる。 ・せいかくにできる。
・はやくできる。 ・わかりやすい。 など
・かき方や発表のし方などの表現のしかたの良さも
あるよね。
・と中の方法にも良さがかくれているかもしれない
ね。
・見つけたら「良さ発見カード」に書こう。
どの方法が課題の解決がしやすいか話し合おう。
・どの方法がかんたんに、はやく、せいかくにでき
るかな。
・どんな数でも使える、いつでも使える考えはない
かな。
・1つの方法だけではなく、組み合わせて良い考え
になることもあるよ。
・それぞれの考えをまとめることはできないかな。
・絵や図を式にできないかな。
・きまり（公式）を見つけよう。

考えの良さを見つけて
話し合おう



気をつけよう

・話し合うときは、課題になっていることがはっきり
するように、「今日の話し合いのポイント」に気を
つけて話し合おう。

算数の学習アンケート



このアンケートは、みなさんに算数の学習の様子について答えてもらい、算数の学習をもっと楽しく、わかりやすくするために行うものです。テストではありませんので、自分が思ったとおりに答えてください。

年 名前

1 算数の時間の一人学びで問題に取り組んでいて、わからなくなったときにあなたならどうしますか。下のの中から、自分に一番近いものを1つえらんで記号にをつけてください。

- ア すぐにあきらめる。
- イ すぐに友達や先生に聞く。
- ウ できるだけ自分で考えるが、それでもわからないときはわからないままにする。
- エ できるだけ自分で考えるが、それでもわからないときは友達や先生に聞く。
- オ できるだけ自分で考えるが、教科書やノートで調べる。
- カ その他（自分の考えを書いてください）

2 (1) 算数の時間に自分の考えを発表するとき、自分の考えをノートなどにまとめたり、話すじゅんばんを決めたりするなど、発表のじゅんびをしますか。下のの中から、自分に一番近いものを1つえらんで記号にをつけてください。

- ア じゅんびをする。
- イ どちらかというとしゅんびをする。
- ウ どちらかというとしゅんびをしない。
- エ じゅんびをしない。



(2) ア、イ、ウに をつけた人に聞きます。じゅんびをするときは、どのようなじゅんびをしますか。あなたがしていることをかんとんに書いてください。

3 (1) 算数の時間に友達ともだちの発表を聞いて、わからないことがあった時、あなたはしつもんをしますか。下から1つえらんで記号にをつけてください。

- ア しつもんをする。
- イ どちらかというとしつもんをする。
- ウ どちらかというとしつもんをしない。
- エ しつもんをしない。



(2) ウとエに をつけた人は、しつもんをしないわけを下の から選んであてはまるもの全部に をつけてください。

- ア めんどうだから。
- イ 人の前で話すことがはずかしいから。
- ウ しつもんの内容をうまく話せないから。
- エ 時間がなくなるから。
- オ わかっていない自分がはずかしいから。
- カ ばかにされるから。
- キ 聞いてくれないから。
- ク 答えてくれないから。
- ケ その他（自分の考えを書いてください）

これで、アンケートはおわりです。
ありがとうございました。



第3・4学年複式算数科学習指導略案

日時 平成17年8月23日～9月15日
 児童数 3年 男子3名 女子1名
 4年 男子1名 女子3名 計8名
 授業者 花巻市立笹間第二小学校
 盛合修二

3 学年

- 1 単元名 第3学年「あまりのあるわり算」
- 2 標
 - 【関心・意欲・態度】
 - ・あまりのある除法計算を、あまりのない除法計算のときと同様に進んで問題解決に活用しようとする。
 - 【数学的な考え方】
 - ・既習の除法と関連付けて、あまりのある場合の除法でも乗法九九を使って答えが求められることを筋道立てて説明する。
 - 【表現・処理】
 - ・あまりのある除法計算ができ、答えの確かめをすることができる。
 - 【知識・理解】
 - ・「あまり」の意味、あまりと除数の大小関係、及びあまりのある除法計算のしかたを理解する。
- 3 関連と発展（省略）
- 4 単元について

児童は、かけ算九九を一回適用する、わりされるわり算の計算方法の学習をしてきている。生活の中で児童は、10個のあめを3人で分けるなど、割り切れずにあまりが出る場合を経験してきている。しかし、このあまりは分けた結果出たあまりであり、わり算の計算とは結びついていないと考えられる。

そこで、本単元では、分けたらあまりが出たときがあるという経験を、既習事項のわり算の意味と対比させ、それぞれのわり算を用いる場面でのあまりの意味と、その計算方法を理解させ、わり算の意味を拡張できるようにしたい。
- 5 児童について（省略）
- 6 学習指導計画（8）

第1小単元	あまりのあるわり算	4時間
・あまりのあるわり算の計算方法	(1)
・あまりの意味	(1)
・あまりと除数の関係	(1)
・答えの確かめ方	(1)
第2小単元	あまりのある問題	1時間
・あまりの意味理解を深める	(1)
第3章単元	まとめ	3時間
・「力をつけよう」	(1)
・「たしかめよう」、学習内容の評価	(2)

4 学年

- 1 単元名 第4学年「わり算のひっ算(2)」
- 2 標
 - 【関心・意欲・態度】
 - ・除数が2位数の除法計算のしかたを、既習の除法計算のしかたをもとに進んで考えようとする。
 - 【数学的な考え方】
 - ・見積もりをもとに、仮商の立て方や修正のしかたについて考える。
 - 【表現・処理】
 - ・除数が2位数の除法計算を正確に筆算ですることができる。
 - 【知識・理解】
 - ・除数が何十の除法計算のしかたを理解する。除数が2位数の除法の筆算のしかたを理解する。
- 3 関連と発展（省略）
- 4 単元について

児童はこれまでに、除数が1位数で商が2位数、3位数になる除法の計算方法を学習してきている。

本単元では、その発展として、除数が2位数の場合について学習する。除数の桁数が増えても計算を進めるときの考え方や手段は同じで、商を求めるときは「たてる」「かける」「ひく」「おろす」のアルゴリズムで計算する。しかし、除数が2位数になると、「たてる」の段階で仮商の修正が必要となり、難しさが増す。商の見当をつける時に、見通しをもたずに商をたてると修正回数が多くなる。できるだけ正しい商に近い仮商のたてかたと確実な修正のしかたを児童に理解させる指導が必要である。商の検討をつけたり修正したりすることは、はじめての経験なので理解しにくいことが考えられるので、習熟の時間を多くとるようにしたい。

また、除法の被除数と除数に同じ数をかけても、同じ数でわっても商はかわらないという性質は、5年生で小数の除法の計算のしかたを考えたり、分数の計算のしかたを考えたりするときにも用いることのできる重要なものであるので関連を考えながら指導していきたい。
- 5 児童について（省略）

- 1 単元名 第3学年「大きい数のしくみ」
- 2 標
 - 【関心・意欲・態度】
 - ・千万の位までの大きな数に関心を持ち、進んで数を書いたり読んだりしようとする。
 - 【数学的な考え方】
 - ・千万の位までの数の表し方を、既習の一万までの数のしくみ(十進位取り記数法)から類推して考える。
 - 【表現・処理】
 - ・千万の位までの数を読んだり書き表したりすることができる。
 - 【知識・理解】
 - ・千万の位までの数について、その表し方のしくみや数の系列、順序、大小などを理解する。
- 3 関連と発展（省略）
- 4 単元について

児童は、一万までの数については、第2学年までに十進数の仕組みや位取り、命数法・記数法、数の系列、順序、大小などの基礎的なことを学習してきている。

この単元では、それらのことが数を千万の位まで拡張しても、同じように考えられることをとらえさせることが大切である。また、10倍、100倍、10でわった数などは、末尾の0のわずに着目させるだけではなく、児童の生活に身近なお金を使いながら理解を図るようにしていきたい。

この後、第4学年で、億、兆などの位を学習し、十進位取り記数法についての理解を深めていく。
- 5 児童について（省略）
- 6 学習指導計画（7）

第1小単元	数の表し方	3時間
・一万の位までの数の読み方、書き方、構成について	(1)
・十万、百万、千万の数のしくみと千万までの読み方、書き方、構成について	(1)
・数の相対的な大きさについて、数の系列、順序、大小について、式の相等の表し方について	(1)
第2小単元	10倍した数と10でわった数	2時間
・整数を10倍した数の表し方について	(1)
・整数を100倍した数、10でわった数の表し方	(1)
第3章単元	まとめ	2時間
・「たしかめよう」、学習内容の評価	(2)

- 6 学習指導計画（15時間）

第1小単元	何十でわる計算	1時間
・何十でわる除法計算のしかた	(1)
第2小単元	2けたの数でわる筆算	5時間
・2位数÷2位数(仮商修正無し)の筆算のしかた、わる数×商+あまり=わられる数の関係と除法の検算	(1)
・2位数÷2位数で過大商をたてたときの仮商修正	(1)
・2位数÷1位数で過小商を立てたときの仮商修正	(1)
・除数を切り捨て、切り上げの両方による仮商修正のしかたを比較し、自分が考えやすい除数の処理のしかた	(1)
・3位数÷1位数=1位数の筆算のしかた	(1)
第3小単元	2けたの数でわる筆算(2)...	3時間
・3位数÷1位数=2位数の筆算のしかた	(2)
・商に0がたつ場合(商が何十)の簡便な筆算のしかた	(1)
第4小単元	わり算のきまり	2時間
・除法について成り立つ性質	(1)
・末尾に0のある数の除法の簡便な計算のしかたと、あまりの求め方	(1)
第5小単元	まとめ	4時間
・「力をつけよう」	(1)
・「やってみよう」世界の国々のわり算の筆算のしかたを比べる活動	(1)
・「たしかめよう」、学習内容の評価	(2)

(第1時 / 15時)

3年 あまりのあるわり算

7 本時の指導

(1) 目標

- ・乗法九九を1回適用してできる除法で、あまりのある場合の計算方法を理解する。

(2) 展開

4年 わり算のひっ算(2)

7 本時の指導

(1) 目標

- ・何十でわる計算のしかたを理解し、その計算をすることができる。

(2) 展開

留意点	学習活動	過程	形態	過程	学習活動	留意点
・わり算の学習内容の確認と見通しをもつ。	わり算たんけんコースに取り組み既習内容の確認をする。 3年 かけ算1回のわり算				4年 除数が1けたのひっ算	・わり算の学習内容の確認と見通しをもつ。
	・答え合わせをする。 1 問題を把握し立式する	課題把握		課題把握	・答え合わせをする。 1 問題を把握し立式する	
	ゼリーが14こあります。1人に3こずつ分けると、何人に分けられますか。				色紙が60まいあります。この色紙を1人に20まいずつ分けると何人に分けられますか。	
	・14 ÷ 3 2 学習課題を設定する				・60 ÷ 20 2 学習課題を設定する	
	九九では、すぐに答えを見つけられないわり算の計算のしかたを考えよう。				何十 ÷ 何十の計算のしかたを考えよう。	
・分かることができる人数を視点にする ・一つの解決方法ではなく解決方法で取り組ませる。	3 解決方法を見通す ・おはじき ・図 ・かけ算九九 4 自力解決する ・自分で取り組む解決方法を決め自力解決に取り組む。(個別指導を入れる) 5 解決方法の検討をする	見通し 自力解決		見通し 自力解決	3 解決方法を見通す ・色紙(具体物) ・図 ・10のたばで考える。 ・20のまとまりで考える。 4 自力解決する ・自分で取り組む解決方法を決め自力解決に取り組む。(個別指導を入れる)	・見通しができていればすぐに自力解決に進めさせる。 ・10のまとまりを視点にする ・一つの解決方法ではなく複数の解決方法で取り組ませる。
・教師が直接指導し、児童に手引を活用させ、かかわり合う学習活動を進めさせる指導を行う。 ・互いの考えの良さに気付かせるようにする。	オールスクラム 第1時では手引の活用を中心に指導し、チェンジスクラムを行わない。	解決の検討		自力解決		・教師が直接指導し、児童に手引を活用させ、かかわり合う学習活動を進めさせる指導を行う。 ・互いの考えの良さに気付かせるようにする。
・数をもつ意味に気付かせ、次の時間の式の書き表し方につなげたい。	6 学習のまとめをする ・あまりの意味についてまとめる。 7 適用・発展問題に取り組む ・式の14、3、4、2はそれぞれ何を表しているか考える。	適用・発展		解決の検討	5 解決方法の検討をする オールスクラム 第1時では手引の活用を中心に指導し、チェンジスクラムを行わない。	
・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。	8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。			適用・発展	6 学習のまとめをする 60 ÷ 20は6 ÷ 2と同じ商になります。 7 90 ÷ 20の計算のしかたを考える ・あまりについて考える。 8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。	・あまりが10の束であることに気付かせる。 ・両学年の発表を聞く。

「注」1 学習指導略案は、第8時、第14時、第15時を除くかかわり合う学習活動を行った時間である。

「注」2 太字はかかわり合う学習活動の指導である。

(第2時 / 15時)

3年 ありのあるわり算

7 本時の指導

(1) 目標

- ・乗法九九を1回適用してできる除法で、ありのある場合の計算方法を理解する。

(2) 展開

4年 わり算のひっ算(2)

7 本時の指導

(1) 目標

- ・2位数÷2位数(仮商修正なし)の筆算のしかたを理解し、その計算をすることができる。
- ・わる数×商+あまり=わられる数の関係を理解し、除法の検算をすることができる。

(2) 展開

留意点	学習活動	過程	形態	過程	学習活動	留意点
	1 学習課題の設定	課題把握		課題把握	1 問題を把握し立式する	
	<p>ありのあるわり算の九九を使った計算のしかたを考えよう。</p>				<p>色紙が87まいあります。この色紙を1人に21まいずつ分けると何人に分けられますか。</p> <p>・ $87 \div 21$</p>	
	2 自力解決する	自力解決		見通し	2 学習課題の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> ・九九を使った計算方法を考える。(個別指導を入れる) 				<p>何十何÷何十何の計算のしかたを考えよう。</p>	
・教師が直接指導し、児童に手引を活用させ、かわり合う学習活動を進めさせる指導を行う。	3 解決方法の検討をする	解決の検討		自力解決	3 解決方法を見通す	
	<p>チェンジスクラム</p> <p>オールスクラム</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・色紙(具体物) ・図 ・21のまとまりで考える。 	
	4 学習のまとめをする	適用・発展		解決の検討	4 自力解決する	
	<ul style="list-style-type: none"> ・九九を使った計算方法をまとめ、「あり」の意味と式の書き表し方、用語「わりきれない」と「わりきれる」について知る。 				<ul style="list-style-type: none"> ・自分で取り組む解決方法を決め自力解決に取り組む。(個別指導を入れる) 	
	8 適用・発展問題に取り組む	適用・発展		適用・発展	5 解決方法の検討をする	・教師が直接指導し、児童に手引を活用させ、かわり合う学習活動を進めさせる指導を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・計算練習をする。 				<p>チェンジスクラム</p> <p>オールスクラム</p>	
・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。	5 学習を振り返る	適用・発展		適用・発展	6 学習のまとめをする	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習感想を書いて発表をする。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ $87 \div 21$ の計算のしかたをまとめ、筆算しかたを考えまとめる。 ・ $87 \div 21$ の計算の検算をする。 	
					8 適用・発展問題に取り組む	・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。
					<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P6 に取り組み、答え合わせをする。 	
					9 学習を振り返る	
					<ul style="list-style-type: none"> ・学習感想を書いて発表をする。 	

(第3時 / 15時)

3年 あまりのあるわり算

7 本時の指導

- (1) 目標
・あまりと除数の関係を理解する。

(2) 展開

4年 わり算のひっ算(2)

7 本時の指導

- (1) 目標
・2位数÷2位数の筆算で、過大商を立てたときの仮商修正の意味と、そのしかたを理解する。

(2) 展開

留意点	学習活動	過程	形態	過程	学習活動	留意点
	1 問題を把握し立式する	課題把握		課題把握	1 学習課題の設定 ・ $86 \div 23$ を23を20と見て筆算で計算してみる。	
	13このあめを、4こずつふくろに入れます。何ふくろできて、どこあまりありますか。					
	・教科書P67の挿絵から、あまりと除数の関係を調べる課題をたてる。					
	2 学習課題の設定					
	わる数とあまりの大きさについて考えよう。					
・教師が直接指導し、児童に手引を活用させ、かわり合う学習活動を進めさせる指導を行う。	3 解決方法を見通す ・教科書P67のわり算の表を使って考えていくことで見通しをもたせる。	見通し		見通し		
	4 自力解決する ・あまりと除数の関係を調べる。(個別指導)	自力解決		自力解決		
	5 解決の検討をする	解決の検討		自力解決		
	チェンジスクラム					
	オールスクラム					
	6 学習のまとめをする ・あまりと除数の関係についてまとめる。	適用・発展		解決の検討	5 解決の検討をする	・教師が直接指導し、児童に手引を活用させ、かわり合う学習活動を進めさせる指導を行う。
	7 適用・発展問題に取り組む ・計算練習をする。					
	チェンジスクラム					
	オールスクラム					
	6 学習のまとめをする ・過大商の場合の仮商修正1回の筆算のしかたをまとめる。 ・ $81 \div 12$ の筆算のしかたを考える。 ・過大商の場合の仮商修正2回の筆算のしかたをまとめる。				6 学習のまとめをする ・過大商の場合の仮商修正1回の筆算のしかたをまとめる。 ・ $81 \div 12$ の筆算のしかたを考える。 ・過大商の場合の仮商修正2回の筆算のしかたをまとめる。	
・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。	7 適用・発展問題に取り組む ・計算練習をする。	適用・発展		適用・発展	6 適用・発展問題に取り組む ・計算練習をする。	・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。
	8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。					

(第4時 / 15時)

3年 あまりのあるわり算

7 本時の指導

(1) 目標

- ・あまりのある場合の除法計算について、答えの確かめ方を理解する。

(2) 展開

4年 わり算のひっ算(2)

7 本時の指導

(1) 目標

- ・2位数÷2位数の筆算で、過小商を立てたときの仮商修正のしかたを理解する。

(2) 展開

留意点	学習活動	過程	形態	過程	学習活動	留意点		
<ul style="list-style-type: none"> ・わり算の検算はかけ算を使うことを想起させる ・答え、方法の見通しの後に、考えのまとめ方、かかわり合う学習活動の視点、時間などについて、手引の活用指導を行う。 ・手引を活用させながらかかわり合う学習活動を行わせる。 ・検算の方法をまとめた後、前時に行った練習問題の検算をさせ定着と有用性について感じさせたい。 ・個別指導しながら学習内容の定着を図る。 ・検算の答えで間接指導時に確かめさせる。 ・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。 	1 学習課題の設定 ・24÷6の答えの確かめ方を想起し取り組ませる。	課題把握	課題把握	課題把握	1 学習課題の設定 ・78÷19の筆算を除数を20と見て、計算してみる。	<ul style="list-style-type: none"> ・計算させることで過小商であることに気付かせ話し合いながら課題を設定させたい。 		
	2 解決方法を見通す ・24÷6の答えの確かめ方から、あまりをどうするか予想させる。 (手引の活用指導) 3 自力解決する ・23÷6の答えの確かめ方を考える。 5 解決の検討をする チェンジスクラム オールスクラム	見通し			・商が小さいことから課題を設定する。 商が小さいときにはどうすればいいか考えよう			
	<ul style="list-style-type: none"> ・検算の方法をまとめた後、前時に行った練習問題の検算をさせ定着と有用性について感じさせたい。 ・個別指導しながら学習内容の定着を図る。 ・検算の答えで間接指導時に確かめさせる。 ・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。 	6 学習のまとめをする ・答えを確かめる方法をまとめる。 ・検算の練習をする。	自力解決	見通し	見通し	3 解決方法を見通す ・商を大きくすることに気付け、見通しをもたせる。(手引の活用指導)	<ul style="list-style-type: none"> ・答え、方法の見通しの後に、考えのまとめ方、かかわり合う学習活動の視点、時間などについて、手引の活用指導を行う。 ・手引を活用させながらかかわり合う学習活動を行わせる。 	
		7 適用・発展問題に取り組む ・計算練習し、答えの確かめをする。 (個別指導)	解決の検討			4 自力解決する ・78÷19の筆算のしかたを考え、表記方法についても考えさせる。 5 解決の検討をする チェンジスクラム オールスクラム		
		<ul style="list-style-type: none"> ・答えの確かめをする。 ・学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。 	8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。	適用・発展	適用・発展	適用・発展	6 学習のまとめをする ・過小商の場合の仮商修正のしかたをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導しながら学習内容の定着を図る。 ・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。
			7 適用・発展問題に取り組む ・計算練習をする。 (個別指導)	適用・発展			7 適用・発展問題に取り組む ・計算練習をする。 (個別指導)	
			8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。	適用・発展	適用・発展	適用・発展	8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。

(第5時 / 15時)

3年 あまりのあるわり算

7 本時の指導

- (1) 目標
・あまりのとらえ方について理解を深める。

(2) 展開

4年 わり算のひっ算(2)

7 本時の指導

- (1) 目標
・除数を切り捨て、切り上げの両方による仮商修正のしかたを比較し、自分が考えやすい除数の処理のしかたを考える。
- (2) 展開

留意点	学習活動	過程	形態	過程	学習活動	留意点
	1 問題を把握し立式する	課題把握		課題把握	1 学習課題の設定 ・87÷25の仮商のたてかたを考える。 ・20、30どちらにも仮商でできることに気付かせる。	
	ボールが、1ダースと5こあります。このボールをぜんぶバッグに入れます。1つのバッグに3こずつ入れていくと、バッグはいくつありますか。					
	・ダースの意味について触れる。 ・17÷5 ・計算して答えを求める。			見通し	商のたてかたになれよう。	
	2 学習課題の設定 ・聞かれていることは答えではなく、バッグの数であることに気付かせ課題を設定する。			自力解決	3 解決方法を見通す ・25を20とみるか、30とみるか、実際に計算してみることを知る。 (手引の活用指導) 4 自力解決する ・自分が仮商を立てやすい除数の処理のしかたを考える。 5 解決の検討をする	・考えのまとめ方やかかわり合う学習活動の視点時間などについて、手引の活用指導を行う。
	バッグはいくついるか考えよう。				チェンジスクラム	・手引を活用させながらかかわり合う学習活動を行わせる。
	・答えの見通しの後に、考えのまとめ方、かかわり合う学習活動の視点、時間などについて、手引の活用指導を行う。	見通し		解決の検討	オールスクラム	
	・手引を活用させながらかかわり合う学習活動を行わせる。	自力解決			6 学習のまとめをする ・自分が仮商を立てやすい除数の処理のしかたを発表し、どちらの仮商の方法でも良いことを伝え、まとめる。	・どちらがいいということではなく、自分が計算をしやすい仮商でよいことをおさせる。
	3 解決方法を見通す ・バッグの数に着目させて見通しをもたせる。 (手引の活用指導) 4 自力解決する ・ボール、バッグを図に書いたり、計算でバッグの数を求める。 5 解決の検討をする	見通し			7 適用・発展問題に取り組む ・教科書P9 ~ に取り組む。 ・答え合わせをする。	・早く終わったらパソコンでプリントを印刷し取り組ませる。
	チェンジスクラム	自力解決				
	オールスクラム	解決の検討				
	6 学習のまとめをする ・計算の答えは5あまり2になるが、答えは商+1になることをまとめる。	解決の検討				
	7 適用・発展問題に取り組む ・教科書のP70 に取り組む。 ・答え合わせをする。	適用・発展		適用・発展		・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。
	8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。	適用・発展			8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。	

(第6時 / 15時)

3年 あまりのあるわり算

7 本時の指導

(1) 目標

- ・学習内容を確実に身に付ける。

(2) 展開

4年 わり算のひっ算(2)

7 本時の指導

(1) 目標

- ・3位数÷2位数=1位数の筆算の仮商の立て方を理解し、その計算をすることができる。

(2) 展開

留意点	学習活動	過程	形態	過程	学習活動	留意点
	1 学習課題の設定 ・「力をつけよう」に取り組む。	課題把握		課題把握	1 問題を把握する ・153÷24の筆算のしかたを考えていくことを把握する。 ・被除数が3位数であることから課題を設定する。	
あまりのあるわり算をもっとできるようになろう。	2 学習課題の設定				2 学習課題の設定	
・早く終わった児童はパソコンでプリントを印刷して計算練習に取り組ませる。	2 自力解決する ・教科書P71「力をつけよう」に取り組む。	自力解決		見通し	3 解決方法を見通す ・被除数の何の位に商をたてるのか着目させる。 (手引の活用指導)	・答え、方法の見通しの後に、考えのまとめ方、かわり合う学習活動の視点、時間などについて、手引の活用指導を行う。
	(個別指導)				4 自力解決する ・153÷24の筆算に取り組む。(個別指導)	
	5 解決の検討をする ・答え合わせをする。	解決の検討		解決の検討	5 解決の検討をする チェンジスクラム オールスクラム	・手引を活用させながらかわり合う学習活動を行わせる。
	6 計算練習をする ・練習問題に取り組む。				6 学習のまとめをする ・153÷24の筆算のしかたをまとめる。	
・パソコンでプリントを印刷し取り組み、自分で答え合わせをさせる。	(個別指導)	適用・発展		適用・発展	7 適用・発展問題に取り組む ・計算練習をする。 (個別指導)	・パソコンでプリントを印刷し取り組み、自分で答え合わせをさせる。
	・答え合わせをする。				8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。	
・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。	8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。					・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。

(第7時 / 15時)

3年 あまりのあるわり算

7 本時の指導

(1) 目標

- ・学習内容の理解を確認する。

(2) 展開

4年 わり算のひっ算(2)

7 本時の指導

(1) 目標

- ・3位数÷2位数=2位数の筆算のしかたを理解し、その計算をすることができる。

(2) 展開

留意点	学習活動	過程	形態	過程	学習活動	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・問題の概要を把握させながら解決方法について確認する 	1 「たしかめよう」に取り組むことを確認する ・問題の概要を把握する 2 学習課題を設定する	課題把握		課題把握	色紙が345まいあります。この色紙を21人で同じ数ずつ分けると、1人ぶんは何まいになって、何まいあまりありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・10の束で分けていくことに着目させ、被除数の何の位に商をたてるかということから課題につなげる。
	あまりがあるわり算のしかたを確かめて、計算になれよう。				1 問題を把握し立式する ・ $345 \div 21$ ・筆算をやってみる。 ・商がたつ位に着目する。 2 学習課題を設定する	
<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決が早く終わった児童には練習問題に取り組むことを指示しておく。 	3 自力解決する ・教科書P72の問題に取り組む。 (個別指導)	自力解決		見通し	3 解決方法を見通す ・10の束で分けていくことから、答えは10以上になることを予想する。 ・商は10の位からたつことを確認する。(手引の活用指導)	<ul style="list-style-type: none"> ・答え、方法の見通しの後に、考えのまとめ方、かわり合う学習活動の視点、時間などについて、手引の活用指導を行う。
	5 解決方法の検討をする ・答え合わせをする。				4 自力解決する ・ $345 \div 21$ の筆算に取り組む。(個別指導)	
<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを使って練習問題を印刷し取り組む。 ・答え合わせは個人で行う。 	6 計算練習をする ・練習問題に取り組む。 ・答え合わせをする。	解決の検討		自力解決	6 学習のまとめをする ・ $345 \div 21$ の筆算のしかたをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の考えのまとめを発表させよりよい計算方法を見付けるようにまとめさせる。
	7 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。				7 $345 \div 21$ の筆算を確認しながら、もう一度取り組む。	
<ul style="list-style-type: none"> ・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。 	7 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。	適用・発展		適用・発展	8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。

(第9時 / 15時)

3年 大きい数のしくみ

7 本時の指導

(1) 目標

- ・一万の位までの数の読み方、書き方、構成を理解する。

(2) 展開

4年 わり算のひっ算(2)

7 本時の指導

(1) 目標

- ・商に0がたつ場合(商が何十)の簡便な筆算のしかたを理解する。

(2) 展開

留意点	学習活動	過程	形態	過程	学習活動	留意点
	1 学習課題の設定 ・絵を見て、入場券の枚数を数え、1万より大きい数に気付かせ、課題設定する。	課題把握		課題把握	1 問題を把握する ・ $941 \div 23$ を筆算で計算してみる。 2 学習課題の設定	・商の0を省略する方法を見付けることを把握させる
	10000より大きい数を調べよう。				見通し	3 解決方法を見通す ・0を省略することに注目させる。(手引の活用指導) 4 自力解決する ・ $941 \div 23$ の筆算の簡単なしかたを考える。
・答え、方法の見通しの後に、考えのまとめ方、かかわり合う学習活動の視点、時間などについて、手引の活用指導を行う。	3 解決方法を見通す ・24153の記数法・命数法を知る。 ・位取り表を使い分かりやすく表すことに注目させる。(手引の活用指導)	見通し		自力解決	5 解決の検討をする チェンジスクラム オールスクラム	・手引を活用させながらかかわり合う学習活動を行わせる。
	4 自力解決する ・位取り表を使って数の構成を考える。 5 解決の検討をする チェンジスクラム オールスクラム				解決の検討	
・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。	7 適用・発展問題に取り組む ・記数法、命数法の練習をする。	適用・発展		適用・発展	7 適用・発展問題に取り組む ・計算練習をする。	
	8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。				適用・発展	

(第10時 / 15時)

3年 大きい数のしくみ

7 本時の指導

(1) 目標

- ・十万、百万、千万の数のしくみと千万の位までの読み方、書き方、構成を理解する。

(2) 展開

4年 わり算のひっ算(2)

7 本時の指導

(1) 目標

- ・除法について成り立つ性質を理解する。

(2) 展開

留意点	学習活動	過程	形態	過程	学習活動	留意点
	1 学習課題の設定 ・一万を10こ集めた数を、「十万」といい「100000」と書くことを知り、課題を設定する。	課題把握		課題把握	1 学習課題の設定 ・商が4になる式を探してノートに書き、その後、黒板にみんなが見付けた式をまとめて書く。	・全員で協力して間接指導時に進めさせる。
	100000の数のしくみを考えよう。					
・答え、方法の見通しの後に、考えのまとめ方、かわり合う学習活動の視点、時間などについて、手引の活用指導を行う。	2 解決方法を見通す ・位取り表に着目させ、考える見通しをもたせる。 (手引の活用指導)	見通し		見通し		
	4 自力解決する ・位取り表を使って数の構成を考える。	自力解決		自力解決	商が4になるわり算のひみつを見つけよう。	
	5 解決の検討をする チェンジスクラム オールスクラム	解決の検討		見通し	2 解決方法を見通す ・わられる数を小さい順や大きい順に並べて考えることに着目させる。 (手引の活用指導)	・答え、方法の見通しの後に、考えのまとめ方、かわり合う学習活動の視点、時間などについて、手引の活用指導を行う。
	6 学習のまとめをする ・一万～千万の数はそれぞれ10個分の関係になっていることをまとめる。			自力解決	4 自力解決する ・除法の性質について考える。 5 解決の検討をする チェンジスクラム オールスクラム	
	7 適用・発展問題に取り組む ・P 6の問題に取り組む。 ・答え合わせをする。	適用・発展		解決の検討	6 学習のまとめをする ・除法の性質をまとめる。 ・計算練習をする。	
・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。	8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。			適用・発展	8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。	・互いの答えを発表し合い、間接指導時に、答えを確かめる。 ・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。

(第11時 / 15時)

3年 大きい数のしくみ

7 本時の指導

(1) 目標

- ・十万、百万、千万の数のしくみと千万の位までの読み方、書き方、構成を理解する。

(2) 展開

4年 わり算のひっ算(2)

7 本時の指導

(1) 目標

- ・末尾に0のある数の除法の簡便な計算のしかたと、あまりの求め方を理解する。

(2) 展開

留意点	学習活動	過程	形態	過程	学習活動	留意点
	1 学習課題を設定する 14000は1000を何個集めた数が考えよう。	課題把握			1 3200 ÷ 400を筆算で計算する	・0の表記が多く煩雑なことに気付かせる。
<ul style="list-style-type: none"> ・1000のまとまりで考えることを視点にする。 ・手引の活用についてふれる。 	2 解決方法を見通す ・1000のまとまり ・14000を10000と4000に分けて考える。	見通し		課題把握	2 学習課題を設定する 3200 ÷ 400の筆算のしかたを工夫しよう。	
	3 自力解決する。 ・14000は1000を何個集めた数が自力解決する。	自力解決				
<ul style="list-style-type: none"> ・1000のまとまりを視点にかかわり合う学習活動を行わせる。 	4 解決方法の検討をする チェンジスクラム オールスクラム	解決の検討		見通し	3 解決方法を見通す ・100の束で考える。 ・0を消して筆算する。	<ul style="list-style-type: none"> ・100のまとまりに着目させ、末尾の0を消すことに気付かせる ・手引の活用についてふれる。
	5 学習のまとめをする ・14000は1000を何個集めた数がまとめる。 ・教科書 p 6 に取り組む。				自力解決	4 自力解決する ・3200 ÷ 400の筆算に取り組む。 チェンジスクラム オールスクラム
<ul style="list-style-type: none"> ・一番小さいめもりは、1000のまとまりになっていることに気付かせながら指導する。 	6 数直線について考える ・一番小さい目盛りがいくつになるか考え、数直線の読み方や数直線へ数の表す方法をまとめる。 ・練習問題に取り組む。			解決の検討	5 解決方法の検討をする ・3200 ÷ 400の筆算の方法をまとめる。 ・2700 ÷ 400の筆算に取り組み、末尾に0のある数の除法のあまりの求め方を考える。 チェンジスクラム オールスクラム	<ul style="list-style-type: none"> ・あまりがある場合はどうするかを視点にかかわり合う学習活動を行わせる。
	7 「等号」「不等号」の用語と意味についてまとめる	適用・発展				6 学習のまとめをする 末尾に0のある数の除法のあまりの求め方をまとめる。
<ul style="list-style-type: none"> ・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。 	・答え合わせをする。			適用・発展	8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。
	8 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。					

(第12時 / 15時)

3年 大きい数のしくみ

7 本時の指導

- (1) 目標
・整数を10倍した数の表し方を理解する。
(2) 展開

4年 わり算のひっ算(2)

7 本時の指導

- (1) 目標
・学習内容を確実に身に付ける。
(2) 展開

留意点	学習活動	過程	形態	過程	学習活動	留意点
	1 学習課題の設定 ・20の10倍の数を考えることから課題を設定する。	課題把握		課題把握	1 「力をつけよう」に取り組むことを知る。 ・問題の概要を把握する。 2 学習課題の設定	・問題の概要を把握させながら解決方法について確認する。
10倍するともとの数はいくつになるか考えよう					わり算の筆算のしかたを確かめて、計算になれよう。	
・見通せない児童には、お金で考えることに気付かせる。 ・手引の活用についてふれる。	2 解決方法を見通す ・10倍の意味を確認する。 ・位取り表や、お金で考えることで見通しをもたせる。	見通し		自力解決	3 自力解決する ・教科書P72の問題に取り組む。 (個別指導)	・自力解決が早く終わった児童には練習問題に取り組むことを指示しておく。
	3 自力解決する ・見通しをもとに自力解決をする。(個別指導)					
・自力解決させ、チェンジスクラム、オールスクラムと進めさせる。	4 解決方法の検討をする ・25の10倍はいくつになるか考える。	解決の検討		解決の検討	4 解決方法の検討をする ・答え合わせをする。	
	チェンジスクラム オールスクラム					
・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。	4 学習のまとめをする ・25の10倍の数を確かめ、もとの数と10倍した数の位の並びを比べてまとめる。	適用・発展		適用・発展	5 計算練習をする ・練習問題に取り組む。 ・答え合わせをする。	・パソコンを使って練習問題を印刷し取り組む。 ・答え合わせは個人で行う。
	5 適用・発展問題に取り組む ・練習問題に取り組む。					
	6 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。	適用・発展			6 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。	・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。

(第13時 / 15時)

3年 大きい数のしくみ

7 本時の指導

- (1) 目標
 ・整数を100倍した数、10でわった数の表し方を理解する。
- (2) 展開

4年 わり算のひっ算(2)

7 本時の指導

- (1) 目標
 ・操作的な活動や考察などをおして学習内容の理解を深め、わり算についての興味を広げる。
- (2) 展開

留意点	学習活動	過程	形態	過程	学習活動	留意点
	<ul style="list-style-type: none"> ・昨日の復習の25の10倍した数を考える。 1 学習課題の設定 ・25の100倍した数を考えることを伝え課題を設定する。 	課題把握		課題把握	<ul style="list-style-type: none"> 1 学習課題の設定 ・〔やってみよう〕世界の国々のわり算の筆算のしかたを比べる活動に取り組み、課題を設定する。 	
	25の100倍はいくつになるか考えよう				世界のわり算の筆算に取り組もう	
<ul style="list-style-type: none"> ・100倍の意味がとらえられない場合10倍の10倍ということから見通しをもたせる。 ・手引の活用についてふれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3 解決方法を見通す ・100倍の意味について確認する。 ・位取り表を使い、位の並びに着目させて見通しをもたせる。 	見通し		見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・各国の筆算のプリントを準備する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 4 自力解決する ・25の100倍に取り組む。(個別指導) 	自力解決		自力解決		
	<ul style="list-style-type: none"> 4 解決方法の検討をする <p style="text-align: center;">チェンジスクラム</p> <p style="text-align: center;">オールスクラム</p>	解決の検討		解決の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・各国の筆算のプリントを準備して、数を書き入れるだけで問題を作成できるようにする。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 5 学習のまとめをする ・25の100倍について数の並びを、位取り表でまとめる。 ・200を10でわった数を考える。 ・もとの数と10でわった数の位の並びをまとめる。 	適用・発展		適用・発展		
	<ul style="list-style-type: none"> 6 適用・発展問題に取り組む ・練習問題に取り組む。 	適用・発展		適用・発展	<ul style="list-style-type: none"> ・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・両学年の感想を聞き、今後の参考にするとともに、共に学んだ一体感を感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答え合わせをする。 7 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。 			<ul style="list-style-type: none"> 7 学習を振り返る ・学習感想を書いて発表をする。 		

